

国民体育大会の成績に関する一考察

著者	坂井 亓郎, 松坂 弘康
雑誌名	北海道女子短期大学研究紀要
巻	5
ページ	5-34
発行年	1973
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002064/

国民体育大会の成績に関する一考察

A Study of the Records of Players Who Participated in the National Sports Festivals

坂井 堯郎

Ichiro Sakai

松坂 弘康(札幌医科大学)

Hiroyasu Matsuzaka

I 目 的

全国的総合スポーツ競技会である国民体育大会は、第1回大会が昭和21年京阪神地区で開催されて4半世紀を経たが、北海道は毎回千人前後の大選手団を派遣しながらも、近時、その成績は必ずしも道民の納得するものをあげていないと批判の声も高まりつつある。

今回は、スポーツのより高度化を図るための一資料として、まず、その現状を把握しようと、国民体育大会における北海道選手のとかく主観的・観念的にみていた戦績について統計的・客観的に対比分析を試みようとした。

II 調査の方法

国民体育大会の競技記録は、第1回大会（昭和21年）から第25回大会（昭和45年）のものを、財団法人日本体育協会および国民体育大会開催都道府県実行委員会より報告されている、各回大会の「国民体育大会報告書」より集約した。

III 対 比 分 析

1. 都道府県成績対比

地域対抗の形式をとった第1・2回大会を除き、第3回以降の大会で入賞（1位～8位）した都道府県は、表1（P～）のとおりであるが、第13回以前の大会は、現行大会と得点計算等が大幅に異なるので、成績の比較可能な第14回大会以降にしぼって分析を試みた。

まず、男女総合成績（表2）では、12回の大会において、1度以上入賞したのは、東京都以下22都道府県で、全体（沖縄を除く）の47.8%と半数に近い都道府県が入賞を経験している。また、毎回の大会に入賞しているのは、東京都・大阪府および北海道であるが、昭和34年10月の伊勢湾台風の直接被害によって、秋季大会に実質的不参加を余儀なくされ

表1 大会別入賞都道府県順位

回	種別	順位	1	2	3	4	5	6	7	8	北海道順位	
											天皇杯	皇后杯
3	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	4	7
4	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	北海道	大阪府	兵庫県	福岡県	愛知県	京都府	青森県	2	2
5	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	愛知県	大阪府	福岡県	北海道	神奈川県	兵庫県	広島県	5	3
6	天皇杯 皇后杯	冬季大会	北海道	長野県	青森県	岩手県	東京都	栃木県	愛知県	神奈川県		
		夏・秋季大会	東京都	福岡県	神奈川県	愛知県	兵庫県	北海道	大阪府	岡山県		
		冬季大会	北海道	長野県	青森県	東京都	岩手県	新潟県	新潟県	新潟県		
		夏・秋季大会	東京都	岡山県	愛知県	福岡県	広島県	香川県	新潟県	新潟県		
7	天皇杯 皇后杯	冬季大会	北海道	長野県	東京都	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		夏・秋季大会	東京都	福岡県	愛知県	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		冬季大会	北海道	東京都	愛知県	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		夏・秋季大会	東京都	愛知県	愛知県	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
8	天皇杯 皇后杯	冬季大会	北海道	長野県	青森県	東京都	秋田県	秋田県	秋田県	秋田県		
		夏・秋季大会	東京都	神奈川	北海道	愛知県	秋田県	秋田県	秋田県	秋田県		
		冬季大会	北海道	長野県	青森県	東京都	秋田県	秋田県	秋田県	秋田県		
		夏・秋季大会	東京都	長崎県	青森県	東京都	秋田県	秋田県	秋田県	秋田県		
9	天皇杯 皇后杯	冬季大会	北海道	長野県	東京都	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		水泳大会	奈良県	福岡県	東京都	青森県	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		夏・秋季大会	東京都	愛知県	北海道	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		冬季大会	北海道	長野県	青森県	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
10	天皇杯 皇后杯	水泳大会	東京都	長崎県	青森県	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		夏・秋季大会	東京都	愛知県	北海道	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		冬季大会	北海道	長野県	青森県	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
		水泳大会	東京都	長崎県	青森県	東京都	新潟県	新潟県	新潟県	新潟県		
11	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	7	3
12	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	4	3
13	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	8	8
14	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	6	7
15	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	4	5
16	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	4	⑫
17	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	7	7
18	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	6	⑨
19	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	5	7
20	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	5	5
21	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	5	5
22	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	5	⑩
23	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	7	⑨
24	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	7	⑨
25	天皇杯 皇后杯	冬・夏・秋季大会 〃	東京都	東京都	東京都	北海道	大阪府	群馬県	岡山県	兵庫県	7	⑨

(注) 北海道順位で○印は皇后杯入賞外(9位以下)。

た、愛知県、三重県の第14回大会の成績を除けば、愛知県を含めて4都道府県で、この常時入賞県は、全体の8.7%と少ない。そして、本道は下位入賞とはいえ、連続入賞していることは高く評価されている。

32の全種目が優勝した場合の得点を100として、都道府県の活躍指数(表3)をみると、活躍指数分布の大きな傾向としては、第14・15回大会では、1, 2位の差は30前後と、大きい。第16回大会以降は、第22回大会を除いてその差は縮小している。また、2, 3位間は、第20回大会以降狭くなり、3位以下は、第14回大会以来いずれもゆるい差での下降がみられる。これは、開催県・東京都・大阪府および愛知県の常時上位入賞県に、新勢力として台頭してきた埼玉県・岐阜県等がくい込み、激しい上位入賞戦による現象である。そして、これらの入賞軌道から、脱落したのは北海道であり、神奈川県・静岡県・京都府・兵庫県および福岡県である。

各回の大会における都府県活躍の傾向と、本道のそれとの関係は、上位入賞の都府県で大量得点を果たした回では、本道は少ない得点ながらも漁夫の利で、入賞の順位は上がるが、最近の傾向にみられるような、上位入賞県の得点が少なく、且つ、得点差が狭隘になれば、現況のような得点では、本道は、やがて入賞を逸することが予想される。加えて、本道

表3 都道府県別活躍指数

回	項 目	男 女 総 合 成 績 順 位								女 子 総 合 成 績 順 位								備 考
		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	
14	県 指数	東京 68	神奈川 30	大阪 26	北海道 25	静岡 21	京都 19	福岡 19	兵庫 15	東京 59	静岡 33	大阪 32	埼玉 20	北海道 17	神奈川 15	広島 15	宮城 13	
15	県 指数	東京 59	熊本 31	愛知 24	北海道 23	神奈川 21	京都 19	福岡 19	大阪 19	東京 55	愛知 34	熊本 24	大阪 24	埼玉 21	静岡 20	兵庫 18	富山 15	13位 北海道 10
16	県 指数	東京 61	秋田 41	愛知 35	大阪 21	福岡 19	神奈川 19	北海道 19	静岡 18	東京 49	愛知 40	大阪 31	秋田 22	静岡 17	神奈川 16	北海道 14	富山 14	
17	県 指数	東京 52	岡山 40	愛知 28	大阪 23	福岡 22	北海道 19	神奈川 18	広島 16	東京 51	岡山 50	愛知 40	大阪 22	静岡 21	山口 13	京都 13	富山 13	9位 北海道 12
18	県 指数	東京 51	山口 51	大阪 28	愛知 25	北海道 20	神奈川 19	福岡 16	岡山 15	東京 48	山口 39	大阪 37	愛知 31	新潟 18	兵庫 17	北海道 16	静岡 14	
19	県 指数	新潟 59	東京 50	大阪 29	愛知 21	北海道 20	埼玉 15	神奈川 15	静岡 14	新潟 48	東京 45	大阪 28	愛知 25	北海道 21	静岡 21	岡山 17	兵庫 15	
20	県 指数	岐阜 63	東京 42	大阪 34	愛知 30	北海道 18	兵庫 14	埼玉 13	新潟 13	岐阜 47	東京 39	大阪 37	愛知 29	兵庫 21	静岡 18	埼玉 17	新潟 16	10位 北海道 14
21	県 指数	大分 59	東京 38	大阪 28	愛知 28	埼玉 23	岐阜 21	北海道 17	福岡 14	東京 40	大阪 39	愛知 29	岐阜 29	大分 28	新潟 18	兵庫 17	山口 13	9位 北海道 12
22	県 指数	埼玉 74	東京 42	大阪 21	愛知 18	岐阜 17	大分 15	北海道 12	広島 12	埼玉 54	東京 37	大阪 34	岐阜 25	愛知 20	大分 13	秋田 13	北海道 13	
23	県 指数	福井 40	東京 34	埼玉 25	大阪 25	愛知 23	福岡 17	岐阜 17	北海道 16	東京 39	愛知 35	大阪 34	福井 32	北海道 17	岐阜 16	兵庫 16	埼玉 15	
24	県 指数	長崎 53	東京 33	埼玉 33	愛知 29	大阪 26	岐阜 18	北海道 17	大分 15	長崎 44	東京 44	大阪 38	愛知 28	埼玉 20	兵庫 16	岐阜 16	北海道 15	
25	県 指数	岩手 48	東京 38	大阪 30	埼玉 24	岐阜 20	愛知 19	千葉 16	北海道 15	大阪 46	東京 40	岩手 34	愛知 29	岐阜 22	秋田 16	新潟 16	広島 16	12位 北海道 10

(注) 指数は、1種目10点(1位)×種目数(男女総合32種目、女子総合18種目)を100とした。

表2 都道府県男女総合成績

回 都道府県				第 14 回		第 15 回		第 16 回		第 17 回		第 18 回	
				得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位
1	北海道	北海	道	78.62	4	75.11	4	60.64	7	60.00	6	64.14	5
2	青森	森	道	20.00	19	14.50	22	10.00	25	25.00	16	10.75	23
3	岩手	手	道	17.33	22	9.20	30	14.25	21	19.50	18	12.75	20
4	宮城	城	道	34.74	10	23.00	16	27.50	13	12.00	25	10.64	24
5	秋田	田	道	30.00	12	56.66	9	131.00	2	41.12	10	44.10	10
6	山形	形	道	3.50	39	4.00	35	11.00	23	1.00	41	11.10	22
7	福島	島	道	4.70	37	15.00	21	12.00	22	13.00	23	24.50	15
8	茨城	城	道	6.92	32	0.20	38	8.64	27	2.50	40	3.33	38
9	栃木	木	道	26.92	13	14.50	22	8.00	28	9.92	27	10.10	26
10	群馬	馬	道	24.83	16	12.83	25	6.00	33	6.00	34	5.64	35
11	埼玉県	玉	奈	39.83	9	30.00	13	22.00	15	47.00	9	40.00	11
12	千葉県	葉	奈	12.33	24	14.00	24	21.00	17	14.00	22	9.00	28
13	東京都	京	奈	216.00	1	190.00	1	194.00	1	165.00	1	164.50	1
14	神奈川県	川	奈	97.00	2	68.17	5	61.14	6	57.00	7	59.75	6
15	新潟県	潟	奈	22.00	18	15.50	20	27.50	13	21.92	17	44.39	9
16	富山県	山	奈	18.50	21	24.75	14	17.06	19	15.00	19	11.64	21
17	石川県	川	奈	6.00	33	0	39	7.42	32	14.50	21	6.60	32
18	福井県	井	奈	0	43	0	39	0	45	0	43	0	44
19	山梨県	梨	奈	4.00	38	1.00	36	3.42	36	0	43	1.00	42
20	長野県	野	奈	25.50	14	24.75	14	30.00	12	28.00	14	14.00	19
21	岐阜県	阜	歌	0	43	7.00	32	2.00	40	7.50	32	10.00	27
22	静岡県	岡	歌	68.00	5	46.41	10	57.25	8	40.25	11	39.00	12
23	愛知県	知	歌	6.00	33	77.50	3	113.00	3	91.00	3	79.95	4
24	三重県	重	歌	0	43	0	39	3.00	37	0	43	2.50	39
25	滋賀県	賀	歌	12.00	25	9.50	28	8.00	28	8.00	31	10.58	25
26	京都府	都	歌	61.50	6	61.50	6	33.00	11	26.33	15	22.75	16
27	大阪府	阪	歌	84.50	3	59.83	8	65.64	4	73.00	4	89.08	3
28	兵庫県	庫	歌	47.00	8	42.00	11	36.50	10	38.00	12	38.25	13
29	奈良県	良	歌	5.42	36	9.50	28	2.00	40	9.50	28	0.14	43
30	和歌山県	山	歌	6.00	33	0	39	0.14	44	6.00	34	0	44
31	鳥取県	取	歌	13.50	23	16.50	19	7.50	30	6.00	34	4.00	36
32	島根県	根	歌	0	43	7.00	32	1.50	42	5.00	38	0	44
33	岡山県	山	歌	23.50	17	23.00	16	21.50	16	127.42	2	48.50	8
34	広島県	島	歌	25.03	15	40.42	12	53.00	9	49.92	8	32.25	14
35	山口県	口	歌	11.75	26	5.25	34	3.50	35	32.45	13	164.10	2
36	徳島県	島	歌	11.00	27	16.70	18	7.50	30	3.00	39	2.50	39
37	香川県	川	歌	8.50	29	8.42	31	0	45	10.00	26	9.00	28
38	愛媛県	媛	歌	19.92	20	10.75	27	16.14	20	15.00	19	6.14	33
39	高知県	知	歌	7.00	30	0	39	2.50	39	5.70	37	14.75	18
40	福岡県	岡	歌	59.53	7	60.75	7	61.41	5	70.50	5	50.00	7
41	佐賀県	賀	児	7.00	30	0	39	1.50	42	0	43	1.50	41
42	長崎県	崎	児	1.37	41	0	39	10.00	25	6.50	33	6.00	34
43	熊本県	本	児	34.50	11	98.33	2	10.33	24	13.00	23	15.00	17
44	大分県	分	児	2.50	40	12.50	26	17.50	18	8.50	29	4.00	36
45	宮崎県	崎	児	0.42	42	0	39	5.50	34	1.00	41	7.00	31
46	鹿児島県	島	児	11.00	27	0.87	37	3.00	37	8.50	29	7.50	30

(注) 沖縄を除く。

第 19 回		第 20 回		第 21 回		第 22 回		第 23 回		第 24 回		第 25 回	
得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位
65.16	5	58.91	5	54.70	7	48.00	7	51.16	8	54.00	7	47.25	8
20.00	19	13.62	25	24.50	15	18.06	20	31.00	13	22.00	15	24.00	18
11.00	26	19.00	18	9.70	29	12.83	26	14.49	27	14.83	23	152.00	1
27.25	14	17.50	19	15.75	19	21.50	18	17.66	22	24.33	13	7.50	30
36.50	9	28.00	11	32.12	10	36.00	10	26.66	17	27.00	12	41.75	9
5.00	33	11.66	28	8.50	31	6.50	34	4.00	38	0	44	2.00	36
14.50	32	19.50	16	13.12	26	24.00	17	21.50	20	22.00	15	27.75	16
0	42	0	42	5.00	37	26.00	15	7.50	33	5.50	35	0	43
5.66	32	11.00	29	8.50	31	16.00	22	10.25	30	7.50	31	11.25	27
6.00	30	5.00	35	4.50	38	10.50	30	13.33	28	4.00	39	0.75	41
46.50	6	42.00	7	72.16	5	237.00	1	79.99	3	104.00	3	76.50	4
14.66	21	27.00	12	15.00	22	9.50	32	8.50	32	12.50	27	52.50	7
158.75	2	134.50	2	121.00	2	134.50	2	107.83	2	107.00	2	120.75	2
46.41	7	22.00	15	29.75	12	31.33	11	27.75	16	16.00	22	40.25	11
187.25	1	41.00	8	39.70	9	26.50	13	22.00	19	19.50	19	14.00	25
10.50	27	15.12	23	7.00	33	14.00	23	12.50	29	2.25	41	2.00	36
14.00	24	9.66	32	0	42	3.00	40	6.50	35	5.00	36	7.00	31
0	42	1.66	40	7.00	33	13.00	24	127.33	1	13.50	24	13.75	26
6.50	29	7.00	34	7.00	33	11.00	29	17.50	23	7.08	34	4.00	34
22.50	17	13.50	26	10.00	27	19.00	19	16.00	25	11.25	28	17.00	23
11.50	25	203.00	1	66.20	6	58.00	4	55.00	7	58.75	6	63.50	5
45.00	8	40.16	9	27.50	14	26.50	13	37.00	11	38.00	10	19.00	21
67.00	4	94.53	4	88.62	4	58.00	4	72.00	5	92.83	4	59.50	6
0	42	2.50	38	6.00	36	4.50	38	0.16	43	9.00	30	1.00	40
1.50	39	5.00	35	15.00	22	5.00	37	6.00	36	9.50	29	7.00	31
22.06	18	23.91	13	13.62	24	6.50	34	28.00	15	21.75	17	21.00	20
91.66	3	109.99	3	90.62	3	68.50	3	78.50	4	84.50	5	95.50	3
36.25	10	45.62	6	31.62	11	29.00	12	42.50	10	24.33	13	32.00	14
3.00	35	10.50	30	9.00	30	6.50	34	0.50	42	4.50	37	1.50	39
1.50	39	0	42	10.00	27	10.50	30	1.75	40	1.50	42	30.00	15
2.50	36	4.00	37	3.00	40	0	42	1.50	41	0	44	0	43
2.00	37	0	42	0	42	0	42	0	44	0	44	4.00	34
27.50	13	16.28	21	13.33	25	37.00	9	24.50	18	18.50	20	0.50	42
27.25	14	23.50	14	28.00	13	39.00	8	31.75	12	41.00	9	41.50	10
33.75	11	17.50	19	21.83	16	18.00	20	20.50	21	17.00	21	21.50	19
2.00	37	1.00	41	15.25	21	2.00	41	2.00	39	2.50	40	0	43
14.25	23	10.33	31	3.00	40	12.00	27	9.00	31	4.25	38	8.75	28
23.00	16	13.16	27	16.03	18	13.00	24	15.50	26	13.50	24	8.75	28
8.50	28	13.75	24	0	42	12.00	27	7.50	33	13.00	26	2.00	36
31.00	12	38.24	10	45.50	8	24.50	16	55.25	6	31.50	11	38.50	12
0	42	0	42	0	42	0	42	0	44	0.33	43	0	43
3.16	34	0	42	15.70	20	4.00	39	16.75	24	169.08	1	34.00	13
19.00	20	19.12	17	18.50	17	7.83	33	30.75	14	19.75	18	16.50	24
0.50	41	15.50	22	187.50	1	55.50	6	50.75	9	46.83	8	17.50	22
0	42	1.87	39	0	42	0	42	0	44	0	44	0	43
6.00	30	8.66	33	3.50	39	0	42	5.33	37	7.33	33	26.00	17

は第14回大会の78.62点の得点に対して、第25回大会では47.25点と、前者に対して60%しか得点していないように得点減少の傾向にある。これは上位入賞県の大量得点という他力本願に淡い期待をかける以前に、実質的得点源に関する猛省にたった、抜本塞源に努めることが急務である。そして、この12回の大会活躍内容と経過から推して、今後、最小限50点を獲得しないと8位の最下位入賞は困難であり、また、開催県・東京都をはじめ、大阪府・愛知県等の活躍実績から、上位入賞の壁は厚いが、若し5位をめざすならば、得点70点以上の活躍が必要であろう。がしかし、それは後述するように、国民体育大会実施要項にある如く、本道は、大部分の種目がフル・エントリーという利点からすれば、5位以上の上位入賞はむしろ当然であって、分不相の高望みでは決していないのである。

近時、開催県は、国民体育大会そのものの成功と同時に、優勝しなければならないという宿命的傾向が極めて強くなってきている。

第19回新潟国体で、これまで連勝してきた東京都が、開催県に破れて2位となり、その後の大会は、いずれも開催県が天皇杯を獲得している。この兆は、第12回大会の静岡国体から具現し、常勝東京都をはじめ抑えて優勝している（ただし、当時は参加員数が得点に加味され、現行得点計算法と異なる）。爾来、第15回の熊本国体、第16回の秋田国体、第17回の岡山国体、第18回の山口国体は、かつて入賞経験をもたないながらも、開催県として一躍2位を確保している。

このように、開催県上位入賞の背景には、巨額な強化費による選手の即成や、既成選手の強引な程の導入、あるいは高等学校選手の種目別集中強化等の集積等が、国体開催県の名にかくれて堂々濶渉している。そして、競技種目のフル・エントリーや、国民体育大会独特の参加チームの制約、および順位決定法による開催県の有利さも大きな要因である。¹⁾ 困に、第14回大会から開催前年までの成績順位平均は、第21回大会開催の大阪府は30位、第24回大会長崎県の35位、第25回大会岩手県の24位と低い。とくに、第23回大会開催の福井県は39位、平均得点 1.8点、開催前年までの9回の大会中、無得点の大会が6回（66.7%）もあったのが、開催年は127.33点と突然変異的大勝を博していることでも首肯できる。

更には、フル・エントリーという点で、開催県とほぼ同条件にある本道と対比すると、²⁾ 最近3回（第23回大会～第25回大会）の大会における、トーナメント形式の試合延数約150の種別成績で、1回戦不戦勝になっている割合は、開催県58.5%に対して本道は32.7%、また参加チーム数が15以下の競技種目で、戦わずしてすでに得点圏内（8位以内）にあるのは、開催県の50.3%に対して本道は30.7%であり、²⁾ 開催県が競技の組合せ上、いかに有利な仕組みになっているかが推考できる。

これらを本道の立場から考察すると、開催県との対比では、本道では不利であるということで、地区予選の多い他の都道府県からみると、ラグビー・フットボール競技の教員男子等を除く大部分の種目種別は、北海道1ブロックとして参加できる極めて有利な条件下

にある。また、本道の男女総合成績は、平均6位ではあるが、この得点を参加人員（役員と選手）1人当りでみると、平均12位と劣り、都道府県人口1人当りの得点順位では、18位と更に悪い。これらの事実が参加人員の削減、あるいは、参加者の精鋭主義という世評の根因をつくっているものと考えらる。

而して、本道国民体育大会選手団の派遣責任者の1つである財団法人北海道体育協会は、この世評に反映しようとし、低迷する成績の向上策として、北海道1ブロック制を自ら破棄して、東北地区の国体予選に合流参加し、刺激を与えるべくすすめているようであるが、この思惟を、国民体育大会において、1種目でも多く入賞しようという観点から思考すれば、競技をする方法上から、本道が開催県とともに、最大利点となっている1ブロック制参加の特権を放棄することで、この飛躍した意図と処方に疑念をいだかざるを得ないし、況んや、スポーツの高度化を図る抜本的手段としては、大局を忘れ、顕微鏡的ものの見方といえるだろう。

女子総合成績（表4）で、過去12回の大会で1度以上入賞したのは、男女総合成績同様全体の47.8%、22都道府県であるが、その内容では、宮城県・富山県が男女総合入賞にはなく、千葉県・福岡県が女子総合で入賞していないで、他は同じ都道府県である。また、毎回入賞しているのは、東京都・大阪府および愛知県（第14回大会を除く）の3都府県で、他の道県は、順位の上下動が多く不安定である。東京都が、第19回大会で開催地新潟県に王座を譲ってからは、東京都と開催県で1位を分ってきたが、第25回大会で、大阪府がはじめて皇后杯を獲得している。

活躍度（表12）は、第14・第15回大会では、1、2位との差は約24位と大きいですが、その後の大会では、第22回大会を除いて狭くなり、3位以下は、第19回大会を除いて、第14回大会から顕著な差はみられない。これは、都道府県の総合的な力に大差はなく、開催県や東京都等上位入賞県にも、安定性がみられないところに起因しているとおもわれる。

本道もまた例外ではなく、第19回大会の5位、得点37.51点を最高にして変動多く、順位の最低は第15回大会の13位、最低得点は第25回大会の17.50点で、平均8位、得点25.70点である。また、本道が過去12回の大会推移から、今後女子総合成績8位を堅持するには、最低の目処は30点であり、かつて、3回の経験をもつ5位入賞は、40点得点しなければ安全圏内とはいえないと推測される。そして、男女総合成績同様5位以内の入賞は、本道のおかれている諸条件からいえば、決して至難なわざではないといえるだろう。

開催県の女子総合成績は、第21回大分国体の5位、第23回福井国体の4位、第25回岩手国体の3位等は、皇后杯授与の栄誉は実現できなかったが、開催県としての上位入賞への執着は、いずれの回も男女総合成績同様苟烈であり、第24回大会開催の長崎県を例にすると、開催前年までの平均は得点2.7点、順位33位、10回の大会中無得点回4回、そして、開催前年は4.77点の得点で29位だったのが、開催年は78.66点で優勝している。

また、男女総合成績でも類似の傾向にあるが、開催県の成績は、一般には開催翌年から

表4 都道府県女子総合成績

都道府県			第 14 回		第 15 回		第 16 回		第 17 回		第 18 回	
			得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位
1	北海道	北 海	30.16	5	18.86	13	26.00	7	21.50	9	29.64	7
2	青森	青 森	10.16	23	2.00	32	1.40	37	0	38	2.00	36
3	岩手	岩 手	7.00	29	7.00	24	4.00	31	2.00	36	1.00	37
4	宮城	宮 城	24.00	8	17.00	15	16.50	15	6.95	25	11.00	17
5	秋田	秋 田	15.25	16	25.20	10	39.00	4	18.45	12	14.50	14
6	山形	山 形	3.50	35	3.12	31	11.00	22	3.50	32	15.50	12
7	福島	福 島	10.66	22	1.32	35	4.00	31	8.00	23	4.00	32
8	茨城	茨 城	5.05	32	0	40	13.50	18	7.00	24	3.50	34
9	栃木	栃 木	14.85	17	7.00	24	12.50	19	17.00	13	24.00	9
10	群馬	群 馬	7.95	25	5.33	29	9.50	24	0	38	6.50	26
11	埼玉県	埼 玉	36.85	4	37.50	5	19.75	11	19.00	11	12.50	16
12	千葉県	千 葉	0	41	10.00	21	12.00	21	3.50	33	7.00	24
13	東京都	東 京	105.45	1	99.12	1	89.00	1	91.25	1	86.00	1
14	神奈川県	神 奈 川	27.00	6	19.18	12	28.00	6	20.50	10	13.47	15
15	新潟県	新 潟	7.85	26	10.00	21	14.50	16	14.00	16	32.50	5
16	富山県	富 山	21.00	11	27.51	8	24.50	8	22.50	7	18.83	11
17	石川県	石 川	7.16	28	6.00	28	0.50	38	0.78	37	5.00	30
18	福井県	福 井	0.85	36	0	40	0	40	0	38	1.00	37
19	山梨県	山 梨	0.16	40	1.12	36	0	40	0	38	0	44
20	長野県	長 野	18.00	13	26.62	9	21.50	9	9.00	21	5.64	28
21	岐阜県	岐 阜	0	41	15.32	17	1.50	36	8.50	22	8.50	22
22	静岡県	静 岡	59.83	2	36.14	6	31.00	5	38.03	5	25.78	8
23	愛知県	愛 知	11.00	21	60.62	2	71.16	2	72.16	3	55.50	4
24	三重県	三 重	0	41	0	40	2.00	35	5.00	29	4.00	32
25	滋賀県	滋 賀	7.85	26	2.00	32	6.00	28	5.00	29	0.64	40
26	京都府	京 都	18.00	13	15.00	18	8.00	26	22.50	7	15.50	12
27	大阪府	大 阪	57.50	3	42.97	4	56.66	3	39.25	4	67.00	3
28	兵庫県	兵 庫	21.03	10	33.12	7	8.50	25	12.08	19	30.50	6
29	奈良県	奈 良	11.50	19	8.00	23	2.50	34	4.00	32	5.00	30
30	和歌山県	和 歌 山	6.33	30	0.85	37	0	40	0	38	0	44
31	鳥取県	鳥 取	4.50	34	11.28	20	10.00	23	6.00	27	10.14	19
32	島根県	島 根	0.33	39	7.00	24	0.25	39	4.50	31	5.14	28
33	岡山県	岡 山	18.70	12	16.12	16	20.50	10	90.50	2	20.64	10
34	広島県	広 島	26.33	7	18.35	14	18.75	14	12.50	17	10.14	19
35	山口県	山 口	12.50	18	2.00	32	3.50	33	23.50	6	70.14	2
36	徳島県	徳 島	0.50	37	0.28	38	6.50	27	6.45	26	1.00	37
37	香川県	香 川	11.33	20	5.32	30	6.00	28	9.58	20	6.00	27
38	愛媛県	媛 媛	21.50	9	12.12	19	19.75	11	16.50	14	7.64	23
39	高知県	高 知	9.00	24	0	40	0	40	0	38	0.33	42
40	福岡県	福 岡	16.66	15	19.45	11	14.16	17	14.50	15	10.50	18
41	佐賀県	佐 賀	0	41	0	40	0	40	0	38	0.14	43
42	長崎県	長 崎	0	41	0	40	4.50	30	0	38	10.00	21
43	熊本県	熊 本	6.25	31	43.21	3	19.00	13	12.50	17	7.00	24
44	大分県	大 分	0.50	37	0.12	39	0	40	5.50	28	2.14	35
45	宮崎県	宮 崎	4.85	33	6.66	27	12.50	19	3.00	35	0.50	41
46	鹿児島県	鹿 児 島	0	41	0	40	0	40	0	38	0	44

(注) 沖縄を除く。

第 19 回		第 20 回		第 21 回		第 22 回		第 23 回		第 24 回		第 25 回	
得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位
37.51	5	25.56	10	21.34	9	22.78	8	29.79	5	27.82	8	17.50	12
2.35	33	9.50	19	6.14	27	0	40	1.87	33	2.50	35	6.16	27
4.00	29	2.50	34	3.66	29	6.50	26	11.50	22	2.00	38	62.00	3
10.42	19	2.00	36	0.20	38	0.16	39	1.00	35	3.00	33	3.16	34
15.50	12	13.75	16	15.20	17	23.50	6	9.92	24	17.00	14	29.00	6
10.00	21	6.92	24	17.50	13	8.14	24	8.50	25	5.00	27	2.00	37
0.14	38	1.25	37	0	41	6.14	28	0	39	5.16	26	4.50	29
3.50	30	0	41	4.00	28	11.50	18	7.92	26	4.50	29	4.50	29
10.35	20	16.50	14	18.66	12	19.16	13	22.00	11	21.00	11	15.50	14
0.37	35	0	41	0	41	5.00	31	0.37	37	2.50	35	0	39
20.87	9	30.00	7	19.54	10	97.50	1	27.16	8	35.85	5	19.50	9
5.00	28	4.00	30	10.50	22	9.50	23	10.50	23	3.00	33	6.66	25
81.74	2	70.92	2	71.66	1	66.28	2	70.12	1	78.50	2	71.50	2
14.64	14	9.50	19	10.16	23	17.64	15	14.29	20	3.50	32	15.16	15
86.00	1	29.25	8	33.00	6	18.66	14	20.00	13	17.51	12	29.00	6
11.45	18	9.00	22	12.66	20	10.50	21	16.50	15	6.50	24	15.00	16
8.00	23	4.50	29	1.00	36	0	40	0	39	2.50	35	0	39
0	39	2.30	35	0.34	37	7.50	25	57.16	4	8.66	22	16.50	13
12.50	15	3.00	33	2.00	35	1.00	38	2.50	30	2.00	38	0	39
7.37	24	11.14	18	9.00	25	12.00	17	14.50	18	10.00	19	13.50	18
6.00	26	84.00	1	51.40	4	45.66	4	29.60	6	28.85	7	39.50	5
37.42	6	31.50	6	19.30	11	20.00	12	16.35	16	12.85	16	3.50	33
44.16	4	51.56	4	52.00	3	36.14	5	63.41	2	51.00	4	52.00	4
2.42	32	12.00	17	11.50	21	6.50	26	5.50	28	8.50	23	3.00	35
0	39	1.00	39	0	41	0	40	0.42	36	6.00	25	4.00	31
12.02	16	9.42	21	9.16	24	10.64	30	13.37	21	17.50	13	13.00	19
50.13	3	65.72	3	70.66	2	60.30	3	61.50	3	67.66	3	83.50	1
26.64	8	37.16	5	30.14	7	21.66	10	27.92	7	29.00	6	17.66	11
0	39	5.16	26	0	41	0	40	0	39	0	42	0	39
0	39	0	41	0	41	10.00	22	0	39	4.00	30	8.50	23
6.50	25	1.16	38	3.50	31	5.00	31	0	39	0	42	1.00	38
0	39	5.00	27	2.50	34	0	40	0	39	0	42	0	39
30.92	7	4.92	28	16.20	14	20.64	11	22.00	11	21.16	10	3.00	35
12.00	17	17.00	13	16.20	14	22.64	9	22.35	10	9.50	20	28.00	8
16.53	11	15.06	15	24.00	8	3.50	35	14.50	18	9.00	21	7.50	24
0.37	35	0.14	40	0	41	5.50	30	0	39	0.85	41	0	39
14.99	13	18.66	11	9.00	25	13.64	16	6.00	27	1.85	40	12.50	20
18.00	10	5.64	25	13.06	19	4.14	33	0.37	37	13.16	15	6.50	26
8.50	22	0	41	3.50	31	3.00	36	1.75	34	0	42	0	39
0.37	35	26.00	9	15.36	16	11.50	18	20.00	13	12.85	16	11.50	21
0	39	0	41	0.20	38	0	40	0	39	0	42	0	39
0	39	8.50	23	3.20	33	1.50	37	4.77	29	78.66	1	5.50	28
5.35	27	18.50	12	13.66	18	6.00	29	14.87	17	12.00	18	15.00	16
1.41	34	3.50	31	51.00	5	23.50	6	23.00	9	27.00	9	9.50	22
0	39	3.16	32	3.64	30	0	40	2.10	31	4.00	32	4.00	31
2.87	31	0	41	0.16	40	4.00	34	2.00	32	0	42	19.16	10

5年の間に開催前の成績にもどっている。これは、国民体育大会の地元開催によるスポーツ高度化のチャンスも、単発的変異であって、永続的発展性のない欠陥を指摘せざるを得ないし、国民体育大会の体質的在り方の大きな問題点でもあるといえよう。

最近におけるスポーツ行政の声に、10年後に再度国民体育大会を本道に誘致し、開催しようとする気運がみられるが、その発想から推してみると、それは国民体育大会開催の意義とその効果、あるいはより多様化しつつあるスポーツの大衆化への影響や、変容する社会におけるスポーツの価値意識等の基本的論理と客観性に欠け、経験的・主観的判断から

表5 種目別男女総合成績順位

回			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
種	目															
1	蹴球	球	／	／	—	—	8	6	—	8	—	—	6	8	—	4
2	庭球	球	／	／	—	8	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
3	ホッケー	—	／	／	3	4	4	5	—	／	1	2	5	2	3	5
4	ボクシング	—	／	／	2	2	1	3	2	1	1	4	1	—	7	8
5	バレーボール	—	／	／	7	3	4	4	6	—	5	—	—	8	—	6
6	バスケットボール	—	／	／	—	2	1	—	2	8	5	8	3	8	6	5
7	ハンドボール	—	／	／	不詳	—	—	3	6	1	7	6	5	—	—	—
8	軟式庭球	—	／	／	—	8	—	—	8	7	7	—	—	—	—	—
9	卓球	—	／	／	—	1	6	3	2	—	—	—	—	—	—	—
10	軟式野球	—	／	／	／	4	—	—	—	—	8	—	—	2	1	4
11	柔道	—	／	／	／	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	ソフトボール	—	／	／	／	／	／	／	／	6	—	—	—	—	—	—
13	バドミントン	—	／	／	／	／	2	6	3	3	3	8	4	3	—	2
14	ラグビー	—	／	／	—	5	6	2	2	2	—	3	5	2	—	6
15	高校野球	—	／	／	／	／	／	／	／	／	／	—	8	—	—	7
16	剣道	—	／	／	／	／	／	／	／	／	／	—	—	—	—	—
17	相撲	—	／	／	2	3	3	1	1	1	8	1	2	3	3	5
18	レスリング	—	／	／	—	6	—	—	—	6	2	—	3	5	—	—
19	体操	—	／	／	—	8	—	5	4	7	8	—	—	—	—	—
20	ウエイトリフティング	—	／	／	／	／	／	／	／	—	—	—	—	—	—	—
21	弓道	—	／	／	／	不詳	—	—	7	—	—	7	—	—	—	—
22	陸上競技	—	／	／	不詳	4	—	—	3	5	3	—	7	—	—	—
23	自転車	—	／	／	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
24	馬術	—	／	／	—	／	—	／	／	—	—	—	—	／	4	3
25	フェンシング	—	／	／	／	／	／	／	／	—	7	—	—	—	6	5
26	クレー射撃	—	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	—	6
27	ライフル射撃	—	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	—	4
28	漕艇	—	／	／	1	1	不詳	1	3	1	1	5	1	2	4	3
29	ヨット	—	／	／	—	7	6	—	—	8	—	—	—	—	—	—
30	水泳	—	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	スケート	—	／	／	1	1	1	不詳	不詳	1	1	2	2	2	2	1
32	スキー	—	／	／	1	1	1	不詳	不詳	1	1	1	1	1	1	1
参加種目数			／	／	19	22	24	22	22	27	28	30	30	29	32	32
入賞種目数			／	／	7	17	13	11	13	17	17	11	14	12	10	17
入賞種目率			／	／	36.8	77.3	54.2	50.0	59.1	63.0	60.7	36.7	46.7	41.4	31.3	53.1
都道府県順位			／	／	4	2	5	／	／	／	／	7	4	8	6	4

(注) 6回～9回の都道府県順位は、夏・秋・冬季大会を区別したためなし。

の傾向が強いようである。また、行事開催によるスポーツの普及振興という“みるスポーツ”から“やるスポーツ”への移行を期待するとか等空想的模索にすぎないきらいがある。つまり、国民体育大会開催を手段として、都市建設や地域開発への影響は大きい³⁾が、本来、主目的であるべきスポーツの普及振興には、この大規模行事に比しては、望ましい結果は過去の大会ではでていない。従って、多目的化した国民体育大会のあるべき使命の再検討と相俟って、特にスポーツの高度化と大衆化の同次元における、両極水準の向上に不可欠なスポーツ施設のじゅう分な確保と住民本位のその運営、社会体育費の飛躍的な増額、

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	試合 数	入 賞		順位	最近10回の入賞		順位
												N	%		N	%	
8	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	23	8	34.8	17	1	10.0	21
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	2	8.7	27	—	—	26
1	1	7	6	4	2	5	4	5	—	6	22	20	90.9	4	9	90.0	3
7	—	3	—	8	8	8	—	—	—	6	23	17	73.9	6	5	50.0	9
—	7	—	—	4	7	—	—	—	—	—	23	11	47.8	14	3	30.0	16
3	6	—	—	5	—	7	—	—	—	5	23	15	65.2	9	4	40.0	13
—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	22	7	31.8	18	1	10.0	21
—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	23	5	21.7	22	1	10.0	21
—	—	—	—	—	—	3	3	7	—	—	23	7	30.4	20	3	30.0	16
7	—	7	3	—	4	7	—	—	—	4	22	11	50.0	13	5	50.0	9
—	—	6	—	5	6	—	—	—	4	—	22	5	22.7	21	4	40.0	13
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	1	5.6	28	—	—	26
6	—	7	4	—	4	5	8	—	4	—	21	16	76.2	5	6	60.0	8
3	6	5	—	8	—	—	—	5	—	—	23	14	60.9	11	4	40.0	13
1	8	—	8	8	2	2	4	8	1	—	16	11	68.8	8	8	80.0	5
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	—	—	31	—	—	26
2	2	—	3	—	—	—	—	—	8	—	23	16	69.6	7	3	30.0	16
4	5	—	3	3	8	7	—	—	3	5	23	13	56.5	12	7	70.0	6
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	5	21.7	22	—	—	26
—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	—	18	1	5.6	28	1	10.0	21
—	—	—	—	—	—	—	5	7	—	—	21	4	19.0	24	2	20.0	19
—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	6	22	7	31.8	18	2	20.0	19
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	1	4.3	30	—	—	26
4	1	3	6	3	—	—	8	—	—	—	19	8	42.1	16	5	50.0	9
7	8	3	4	3	4	—	3	—	8	—	18	11	61.1	10	7	70.0	6
—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	13	2	15.4	25	1	10.0	21
—	—	—	—	—	—	6	7	3	5	3	13	6	46.2	15	5	50.0	9
5	7	1	1	1	1	2	—	1	2	5	22	21	95.5	3	9	90.0	3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	3	13.0	26	—	—	26
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	—	31	—	—	26
1	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	21	21	100.0	1	10	100.0	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21	21	100.0	1	10	100.0	1
32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	669	／	／		320	／	
15	12	11	13	13	12	12	11	11	11	10	／	290	／		116	／	
46.9	37.5	34.4	40.6	40.6	37.5	37.5	34.4	34.4	34.4	31.3	／	／	44.3		／	36.3	
4	7	6	5	5	5	7	7	8	7	8	／	／	／		／		

あるいは、住民の生活構造をふまえてのスポーツ意識と活動の高揚等、深遠なる具体策とその実践が約束されなければ、国民体育大会の意義は、無知蒙昧なスポーツ行政や、スポーツ関係者の自己満足はあっても、住民不在の空しい首尾に終るであろう。加えて、財団法人北海道体育協会は、市町村体育協会の加盟を北海道教育委員会ともども促進しつつあるが、本来、スポーツ同好者の組織体である体育協会の縦の組織化に、行政体が何らかの圧力条件を表面化して付しているところに矛盾を感じざるを得ないし、「体育協会」という同名称ながらも、その体質に差のあることを無視した、質的内容のない形式的組織化に早ることは、従らに混乱をみるだけで、スポーツの高度化、大衆化には何ら益することは少ないと考えられる。

2. 種目成績対比

(1) 種目成績順位の対比

国民体育大会における北海道選手団の種目別成績を対比する場合、成績の順位は第3回大会以降の大会を、得点は得点計算の同一である第14回大会以降の12回の大会とした。

まず、男女総合成績の入賞数(表5)を大会別にみると、多いのは第4回大会の77.3%(22種目中17種目入賞)で、順位も19回の大会中最高の2位となっている。つづいて第8回大会の63.0%(27種目中17種目)、第9回大会の60.7%(28種目中17種目)であり、参加種目の半数以上が入賞した回は、23回の大会中7回(30.4%)で、第15回大会以降には

表6 種目別女子総合成績順位

回		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
種	目														
1	庭 球	／	／	—	7	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—
2	ホ ッ ケ ー	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	2	／	5
3	バレーボール	／	／	3	1	5	—	—	—	8	—	—	—	—	—
4	バスケットボール	／	／	—	8	2	—	—	—	—	5	—	—	—	—
5	ハンドボール	／	／	不詳	8	6	4	4	1	5	8	3	—	—	—
6	軟 式 庭 球	／	／	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—
7	卓 球	／	／	—	1	4	—	4	—	—	—	—	—	—	—
8	ソフトボール	／	／	／	／	—	／	—	6	—	—	—	—	—	8
9	バドミントン	／	／	／	／	3	3	5	4	4	5	—	6	—	6
10	体 操	／	／	5	7	8	3	3	5	8	—	—	—	—	7
11	弓 道	／	／	／	不詳	—	8	—	—	—	2	—	—	—	—
12	陸 上 競 技	／	／	不詳	8	—	—	—	—	6	7	—	6	—	—
13	フ エ ン シ ン グ	／	／	／	／	／	／	／	／	／	5	6	—	5	1
14	漕 艇	／	／	／	／	／	／	／	／	／	4	2	5	6	—
15	ヨ ッ ツ	／	／	／	／	／	／	／	／	5	4	5	4	5	—
16	水 泳	／	／	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	ス ケ ー ト	／	／	1	1	1	不詳	不詳	4	3	5	3	7	7	4
18	ス キ ー ー	／	／	1	1	1	不詳	不詳	1	2	1	1	1	1	1
参 加 種 目 数		／	／	9	11	14	11	12	14	16	17	17	18	17	18
入 賞 種 目 数		／	／	4	9	8	5	4	7	8	10	6	7	5	7
入 賞 種 目 率		／	／	44.4	81.8	57.1	45.5	33.3	50.0	50.0	58.8	35.3	38.9	29.4	38.9
都 道 府 県 順 位		／	／	7	2	3	／	／	／	／	3	3	8	8	5

(注) 6回～9回の都道府県順位は、夏・秋・冬季大会を区別したためなし。

ない。入賞率の悪いのは、第13回・25回大会の各32種目中10種目（31.3%）と3分の1以下で、全体では平均44.3%であるが、第16回大会以降の最近10回の入賞率は36.3%と劣っている。

女子総合成績（表6）では、男女総合成績同様第4回大会（11種目中9種目入賞、入賞率81.8%）がよく、5割以上の入賞数は6回（26.1%）である。逆に低率なのは、第25回大会の23.5%（17種目中4種目）を最低にして、3分の1以下の入賞種目数の回が5回（21.7%）と男女総合成績よりも多く、全体の入賞率平均41.6%、最近10回の大会では37.6%とやはり劣っている。

これらを、更に種目別にみると、男女総合成績（表5）では、スキー・スケートが毎回入賞し、つづいて漕艇の95.5%・ホッケーの90.9%が高入賞率を示し、50%以上の入賞は13種目で、それは全体の40.6%に当る。逆に20%以下の入賞率という成績不振の種目は、弓道（19.0%）以下9種目で全体の28.1%あり、就中、入賞皆無というのは水泳と剣道の2種目で、水泳は本道の地理的条件から酌量の余地はあっても、剣道はかつて「しない競技」として、実施した回も含めて、計16回の機会を全く生かされなかったことは、遺憾の極みである。

更に、これを最近10回（第16～第25回）の大会成績にしぼってみると、入賞率50%以上が12種目で全体の37.5%と少なくなり、逆に、20%以下と低調なのは陸上競技以下14種目

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	試合 数	入 賞		順 位	最近10回の入賞		順 位
												N	%		N	%	
—	8	—	—	8	—	—	—	—	—	—	23	4	17.4	16	2	20.0	10
4	／	5	／	5	5	／	／	／	／	／	6	6	100.0	1	3	100.0	1
—	—	—	8	—	—	8	—	—	—	—	23	6	26.1	14	2	20.0	10
8	—	—	—	8	—	—	—	7	8	8	23	8	34.8	9	4	40.0	7
—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	—	22	9	40.9	7	1	10.0	13
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	1	4.3	17	—	—	16
8	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—	23	5	21.7	15	1	10.0	13
—	—	—	—	—	8	8	8	7	—	—	20	6	30.0	10	4	40.0	7
8	—	8	4	7	7	—	—	—	7	—	21	14	66.7	6	5	50.0	6
—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	9	39.1	8	1	10.0	13
—	—	—	—	4	—	7	2	3	—	—	21	6	28.6	12	4	40.0	7
—	—	—	—	—	—	6	8	—	—	—	22	6	27.3	13	2	20.0	10
6	—	3	5	3	1	5	7	6	2	—	16	13	81.3	4	8	80.0	4
—	2	4	1	2	7	—	—	3	1	3	17	12	70.6	5	8	80.0	4
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	5	29.4	11	—	—	16
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	—	18	—	—	16
4	4	7	3	3	4	3	6	1	4	3	21	21	100.0	1	10	100.0	1
3	2	2	2	1	2	2	1	4	2	4	21	21	100.0	1	10	100.0	1
18	17	18	17	18	18	17	17	17	17	17	365	／	／		173	／	
7	5	6	6	10	7	7	7	7	6	4	／	152	／		65	／	
38.9	29.4	33.3	35.3	55.6	38.9	41.2	41.2	41.2	35.3	23.5	／	／	41.6		／	37.6	
12	7	9	7	5	10	9	8	5	8	12	／	／	／		／		

、全体の43.8%であり、うち入賞皆無は、庭球・ソフトボール・剣道・体操・自転車・ヨット・水泳の7種目で、これは32全種目の21.9%に当る。

女子総合成績(表6)では、スキー・スケートおよび、ホッケーは100%の入賞率であるが、そのなかで、ホッケーは第22回大会から東北地区と同一ブロック予選となり、いずれも本大会には参加していない。また、それ以前の参加した大会は、開催要項から制約さ

表7 種目別男女総合成績得点

種目	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	得点回数	得点計	平均得点	順位
1 スケート	10.00	10.00	7.00	10.00	7.00	7.00	7.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	12	108.00	9.00	2
2 スキー	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	12	120.00	10.00	1
3 漕艇	6.00	4.00	6.50	10.00	10.00	10.00	10.00	7.00		10.00	6.50	2.50	11	82.50	6.88	3
4 陸上競技										2.00		3.00	2	5.00	0.42	20
5 ホッケー	400	10.00	10.00	2.00	3.00	5.00	7.00	3.50	4.50	4.00		3.00	11	56.00	4.67	4
6 ボクシング	0.20	0.42		6.00		0.16	0.16	0.20				0.75	7	7.89	0.66	18
7 バレーボール	2.50		2.00			5.00	1.00						4	10.50	0.88	17
8 体操													—	—	—	26
9 バスケットボール	4.00	6.00	3.00			4.00		2.00				4.00	6	23.00	1.92	13
10 レスリング		4.00	3.50		6.00	6.00	0.25	2.00			6.00	3.50	8	31.25	2.60	8
11 ウエイトリフティング									1.50				1	1.50	0.13	23
12 ハンドボール										0.50			1	0.50	0.04	24
13 卓球								6.00	6.00	2.00			3	14.00	1.17	15
14 軟式野球	5.00	2.00		1.50	6.00		4.50	1.00				5.00	7	25.00	2.08	10
15 相撲	4.00	7.00	7.00		5.00						0.50		5	23.50	1.96	11
16 馬術	6.00	5.00	8.50	6.00	3.00	6.00			1.00				7	35.50	2.96	6
17 柔道				3.00		4.00	2.50				4.50		4	14.00	1.17	15
18 ソフトボール													—	—	—	26
19 フェンシング	4.00	0.33	0.50	6.00	5.00	6.00	5.00		5.50		0.50		9	32.83	2.74	7
20 バドミントン	7.00	2.50		1.50	5.00		5.00	3.50	0.50		4.50		8	29.50	2.46	9
21 弓道									3.00	2.00			2	5.00	0.42	20
22 クレー射撃	3.00				1.50							5.50	2	4.50	0.38	22
23 ライフル射撃	4.50							3.00	1.50	6.00	3.00		6	23.50	1.96	11
24 ラグビー	3.00	6.00	2.50	4.00		1.00				4.00			6	20.50	1.71	14
25 高校野球	0.42	7.66	0.14		0.14	1.00	6.50	6.50	4.50	0.16	8.50		10	35.52	2.96	5
26 庭球													—	—	—	26
27 蹴球	5.00	0.20			2.50								3	7.70	0.64	19
28 水泳													—	—	—	26
29 ヨット													—	—	—	26
30 自転車													—	—	—	26
31 軟式庭球										0.50			1	0.50	0.04	24
32 剣道													—	—	—	26
計	78.62	75.11	60.64	60.00	64.14	65.16	58.91	54.70	48.00	51.16	54.00	47.25	／	717.69	59.81	／
都道府県順位	4	4	7	6	5	5	5	7	7	8	7	8	／	／	／	／
参加種目数	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	／	／	／	／
得点種目数	17	15	12	11	13	13	12	12	11	12	10	10	／	／	／	／
得点種目率(%)	53.1	46.9	37.5	34.4	40.6	40.6	37.5	37.5	34.4	37.5	31.3	31.3	／	／	／	／
一種目平均得点	2.46	2.35	1.90	1.88	2.00	2.04	1.84	1.71	1.50	1.60	1.69	1.48	／	／	1.87	／

れて参加チームが少なく、参加するとすべて得点できる競技形式であったり、参加回数も6回と少ないところから、他の種目と同一評価は困難である。従って、むしろホッケーよりフェンシングの81.3%の入賞が高く評価されてよい。

入賞率50%以上は6種目で全体の僅か3分の1であり、20%以下の低劣なのは庭球以下3種目16.7%で、うち入賞皆無は水泳の1種目(5.6%)だけであるが、これを最近10回の大会成績と対比すれば、後者は50%以上入賞の成績良好種目数は6と変わらないが、入賞率20%以下という成績不振種目は、庭球以下9種目と18全種目の実に半数に当る低調ぶりであり、入賞皆無は水泳に加えて、軟式庭球・ヨットの計3種目(16.7%)と増えている腑甲斐なさである。

(2) 種目得点の対比

得点計算法の大幅に異なる第13回大会以前を除いて、第14回大会以降計12回の大会の各種目の得点を対比すると、男女総合成績(表7)では、全回10点(優勝)計120点のスキーと、スケートの計108点(平均得点9点)の2種目は、本道の地理的有利さが得点にも明示され、至極当然の成果である。この2種目を筆頭に、漕艇の1回平均得点6.9点(うち優勝5回)とホッケーの4.7点(うち優勝2回)は特筆されてよい。5位以下は、馬術と高等学校野球の各平均得点3.0点、フェンシングの2.7点、レスリングの2.6点とつづき、1回の平均得点2点(順位では7位)以上は10種目と少なく、全体3分の1種目にも

表8 種目別女子総合成績得点

種目	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	得点回数	得点計	平均得点	順位
1 スケート	5.00	4.00	4.50	1.50	5.00	6.00	5.00	5.50	3.00	10.00	5.00	5.50	12	60.00	5.00	2
2 スキー	10.00	6.00	7.00	7.00	7.00	10.00	6.50	7.00	10.00	4.50	7.00	5.00	12	87.00	7.25	1
3 漕艇			10.00	3.50	8.50	6.00	1.00			5.50	7.66	6.00	8	48.16	4.01	4
4 陸上競技								3.00	1.50				2	4.50	0.38	9
5 ホッケー	2.50	5.00		2.50		2.50	2.50						5	15.00	1.25	6
6 バレーボール					0.14			0.20					2	0.34	0.03	14
7 体操	1.50		3.50										2	5.00	0.42	8
8 バスケットボール		0.20				0.14				0.42	0.16	1.00	5	1.92	0.16	10
9 ハンドボール								0.14					1	0.14	0.01	15
10 卓球		0.16				0.85							2	1.01	0.08	12
11 ソフトボール	0.16						0.14	0.14	0.14	0.37			5	0.95	0.08	13
12 フェンシング	8.50	2.50		6.00	4.00	6.00	10.00	4.00	2.00	3.00	7.00		10	53.00	4.42	3
13 バドミントン	2.50	1.00		1.00	5.00	0.60	0.42				1.00		7	11.52	0.96	7
14 弓道						5.00		1.50	6.00	6.00			4	18.50	1.54	5
15 庭球			1.00			0.42							2	1.42	0.12	11
16 水泳													—	—	—	16
17 ヨット													—	—	—	16
18 軟式庭球													—	—	—	16
計	30.16	18.86	26.00	21.50	29.64	37.51	25.56	21.34	22.78	29.79	27.82	17.50	—	308.46	25.71	—
都道府県順位	5	12	7	9	7	5	10	9	8	5	8	12	—	—	—	—
参加種目数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	—	—	—
得点種目数	7	7	5	6	6	10	7	7	7	7	6	4	79	—	—	—
得点種目率(%)	38.9	38.9	27.8	33.3	33.3	55.5	38.9	38.9	38.9	38.9	33.3	22.2	36.6	—	—	—
一種目平均得点	1.68	1.05	1.44	1.19	1.65	2.08	1.42	1.19	1.27	1.66	1.55	0.97	—	—	1.43	—

満たない。1点台（順位では8位）は6種目（18.8%）、1点未満は16種目とこれが半数を占める低調な活躍現状である。なお、1種目平均得点は1.9点である。

これらの種目得点の合計を大会別にみると、第14回大会の78.62点を最高にして、回を重ねる毎に下降の傾向がみられ、第22回大会および第25回大会では、ついに50点を割ってしまった。1種目平均得点も、第14回大会の2.46点が第25回大会には1.48点と衰退しているのは寂莫のかぎりである。

表9 種目別総合活躍量

る。

一方、女子総合成績（表8）では、毎回入賞はしているが、優勝3回、1回平均得点7.3点のスキーを最高として、スケートの5.0点（優勝1回）、フエシングの4.4点（優勝1回）、漕艇の4.0点（優勝1回）が目立った活躍で、5位は弓道の1回平均得点1.5点と急に落ちた成績となる。

このなかで、本道が優勝して当然のスキーおよびスケートが、有るべき活躍がなされていないところに、女子総合成績不安定と不振の第一原因をつくっている。

1回平均の得点では、2点以上は僅か4種目（22.2%）と少なく、1点台は2種目、そして、1点未満は全種目の3分の2を占める

区分	量活 別躍	男 女 総 合 成 績			女 子 総 合 成 績		
		種 目	活躍量	順	種 目	活躍量	順
A	101 以上	ス キ ー	120.00	1			
		ス ケ ー ト	108.00	2			
B	100 ┌ 50	漕 艇	75.68	3	ス キ ー	87.00	1
		ホ ッ ケ ー	51.37	4	ス ケ ー ト	60.00	2
C	50 ┌ 21	高 校 野 球	29.60	5	フエシング	40.42	3
		フ エ ン シ ン グ	24.66	6	漕 艇	32.08	4
		レ ス リ ン グ	20.80	7			
		馬 術	20.72	8			
D	20 ┌ 11	バドミントン	19.68	9			
		軟 式 野 球	14.56	10			
		ライフル射撃	11.76	11			
		バスケットボール	11.52	12			
E	10 ┌ 1	ラグビーフットボール	10.26	13	バドミントン	6.72	5
		相 撲	9.80	14	ホ ッ ケ ー	6.25	6
		柔 道	4.68	15	弓 道	6.16	7
		ボクシング	4.62	16			
		バレーボール	3.52	17			
		卓 球	3.51	18			
		蹴 球	1.92	19			
F	0.99 ┌ 0.01	陸 上 競 技	0.84	20	体 操	0.84	8
		弓 道	0.84	20	バスケットボール	0.80	9
		ク レ ー 射 撃	0.76	22	陸 上 競 技	0.76	10
		ウエイトリフティング	0.13	23	ソフトボール	0.40	11
		ハンドボール	0.04	24	庭 球	0.24	12
		軟 式 庭 球	0.04	24	卓 球	0.16	13
					バレーボール	0.06	14
					ハンドボール	0.01	15
G	0	体 操	0	26	軟 式 庭 球	0	16
		ソ フ ト ボ ー ル	0	26	水 泳	0	16
		庭 球	0	26	ヨ ッ ト	0	16
		水 泳	0	26			
		ヨ ッ ト	0	26			
		自 転 車	0	26			
		剣 道	0	26			

（注）第14回大会～第25回大会において、得点回数×1回平均得点＝活躍量とした。

12種目という劣敗ぶりである。なお、1種目平均得点は1.4点と、総じて男女総合成績より劣っている、更に、種目別得点の合計を回別に対比すると、男女総合得点の直線的下降傾向に対して、30点以上の得点は第14・19回の2大会、25点～29点が第16・18・20・23・24回の5大会であり、20点～24点は第17・21・22回の3大会、20点未満は第15・25回の2大会と極めて不安定である。

(3) 種目活躍度の対比

各種目入賞得点回数と、その得点内容の観点から総合活躍量（表9）をみると、7つに大別することができる。まず、男女総合成績では、スキースケート・ホッケーの計4種目が優れている。次の高等学校野球の活躍内容は、12回の大会中10回の入賞は好成績であるが、その得点は1回平均2.96点と低く、これが32種目中の5位と、上位活躍種目に位置づけられていることは、他の下位種目がいかに腑甲斐ないかということで、特に、体操・ソフトボール・庭球・水泳・ヨット・自転車および剣道の7種目が活躍0という無能ぶりは、きびしく批判されても致し方のないところである。

女子総合成績では、スキー・スケート・フェンシングおよび漕艇の計4種目の活躍が目立つ程度で、全く無気力なのは、軟式庭球、水泳およびヨットの3種目である。

更に、各種目の入賞順位の推移から、活躍型（表10）の分析を試みると、入賞率90%以上で、しかも上位入賞し、本道の成績に寄与するところ大の「常勝型」には、男女総合成績では、スキー・スケート・ホッケーおよび漕艇の計4種目（全体の12.5%）、女子では、スキー・スケートの2種目（11.1%）、計6種目で延全体の12.0%と僅少である。

また、入賞率が比較的高く、高得点の回もあるが、入賞や順位が安定していない「不安定型」は、男女総合では軟式野球以下11種目（34.4%）、女子総合ではバドミントン以下3種目（16.7%）計14種目（28.0%）で、当該種目の入賞と高得点が安定すれば、本道成

表10 種目別活躍型（第3回大会～第25回大会）

型	内 容	種 目				
		男	女	数	女 子	数
常 勝 型	上位入賞がほとんど	ス キ ー・ス ケ ー ト・ホ ッ ケ ー 漕 艇		4	ス キ ー・ス ケ ー ト	2
不安定型	上位入賞もあるが、圏外もある	軟式野球・ラグビーフットボール・高校野球・レスリング・馬術・フェンシング・ボクシング・バスケットボール・バドミントン・卓球・陸上競技・		11	バドミントン・フェンシング・漕艇・	3
上昇型	成績がよくなっている	ライフル射撃		1		0
下降型	成績が悪くなっている	バレーボール・ハンドボール・相撲・蹴球・		4	ハンドボール・体操・ホッケー・	3
低迷型	下位入賞や圏外	庭球・軟式庭球・柔道・ソフトボール・剣道・ウエイトリフティング・弓道・自転車・クレ射撃・ヨット・水泳・体操		12	庭球・バレーボール・バスケットボール・軟式庭球・卓球・ソフトボール・弓道・陸上競技・ヨット・水泳	10

績の飛躍的上昇が実現するし、また、その可能性をじゅう分もっている。そして、今後、若し種目別重点の強化策を実施するならば、当面これらの種目が該当するであろうし、本道の成績向上の捷徑である。

過去において成績不振だったが、近時、常時入賞の兆がみられ、努力の成果顕著な「上昇型」は、僅かライフル射撃1種目(2.0%)であり、逆に、竜頭蛇尾の斜陽「下降型」は、男女総合ではバレーボール以下4種目(12.5%)、女子総合ではハンドボール以下3種目(16.7%)で、これらは、かつての栄光の再実現に一層の奮起を促したい。

下位入賞がとぎにあって、あるいは水泳と剣道のような入賞皆無という種目も含め、当初から不振の連続である「低迷型」は、男女総合では庭球以下12種目(37.5%)だが、女子総合では庭球以下10種目と過半数を占める55.6%が該当する。これらの種目が、暗雲低迷する国民体育大会成績に対する道民の酷烈な批判の声となっているのである。

(4) 季別得点の対比

以上の各種目の活躍の跡を、冬季、夏季、秋季大会の3季別得点の対比(表11)をみると、まず、各季の種目数を無視した得点合計では、男女総合成績の冬季大会が、平均31.8

表11 季別得点の対比

回	男 女 総 合 成 績										
	冬 季			夏 季			秋 季			総 合	
	得 点	%	活躍度	得 点	%	活躍度	得 点	%	活躍度	得 点	活躍度
14	20.00	25.4	100	6.00	7.6	20	52.62	66.9	20	78.62	25
15	20.00	26.6	100	4.00	5.3	13	51.11	68.0	19	75.11	24
16	17.00	28.0	85	6.50	10.7	22	37.14	61.2	14	60.64	19
17	20.00	33.3	100	10.00	16.7	33	30.00	50.0	11	60.00	19
18	17.00	26.5	85	10.00	15.6	33	37.14	57.9	14	64.14	20
19	17.00	26.1	85	10.00	15.3	33	38.16	58.6	14	65.16	20
20	17.00	28.9	85	10.00	17.0	33	31.91	54.1	12	58.91	18
21	20.00	36.6	100	7.00	12.8	23	27.70	50.6	10	54.70	17
22	20.00	41.7	100	0	0	0	28.00	58.3	10	48.00	15
23	20.00	39.1	100	10.00	19.5	33	21.16	41.4	8	51.16	16
24	20.00	37.0	100	6.50	12.0	22	27.50	50.9	10	54.00	17
25	20.00	42.3	100	2.50	5.3	8	24.75	52.4	9	47.25	15
平均	19.00	31.8	95	6.88	11.5	23	33.93	56.7	13	59.81	19

回	女 子 総 合 成 績										
	冬 季			夏 季			秋 季			総 合	
	得 点	%	活躍度	得 点	%	活躍度	得 点	%	活躍度	得 点	活躍度
14	15.00	49.7	75	0	0	0	15.16	50.3	12	30.16	17
15	10.00	53.0	50	0	0	0	8.86	47.0	7	18.86	11
16	11.50	44.2	58	10.00	38.5	33	4.50	17.3	4	26.00	14
17	8.50	39.5	43	3.50	16.3	12	9.50	44.2	7	21.50	12
18	12.00	40.5	60	8.50	28.7	28	9.14	30.8	7	29.64	17
19	16.00	42.7	80	6.00	16.0	20	15.51	41.3	12	37.51	21
20	11.50	45.0	58	1.00	3.9	3	13.06	51.1	10	25.56	14
21	12.50	58.6	63	0	0	0	8.84	41.4	7	21.34	12
22	13.00	57.1	65	0	0	0	9.78	42.9	8	22.78	13
23	14.50	48.7	73	5.50	18.5	18	9.79	32.8	8	29.79	17
24	12.00	43.1	60	7.66	27.5	26	8.16	29.3	6	27.82	16
25	10.00	60.0	53	6.00	34.3	20	1.00	5.7	1	15.50	10
平均	12.25	47.7	62	4.01	15.6	13	9.44	36.7	7	25.70	14

(注) 得点は冬季2種目、夏季3種目、秋季男女総合27種目、女子総合13種目、合計男女総合32種目、女子総合18種目の得点計である。%は総合得点に対する季別得点の率である。活躍度は1種目1位(10点)を100とした1種目平均活躍度である。

%, 夏季大会は11.5%であり, 秋季大会は過半数の56.7%を得点している。これの第14回大会からの推移をみると, 冬季大会は逐次得点の占める率が高くなり, 前半の30%前後に対して後半は40%前後になっているが, 夏季大会は変動が大きく, 0~19.5%の幅になっている。秋季大会は, 第14, 15回大会では3分の2の得点を占めていたのが, 冬季大会とは逆に, 最近では辛うじて50%前後を保っている。

更に, 各季の種目数が冬季大会2種目, 夏季大会3種目, 秋季大会は27種目とアンバランスなことから, 1種目平均1位(10点)を100として, その活躍度を3季別にみると, 冬季大会は断然優位で平均95を示しているのに対し, 夏季大会はその約4分の1の23, 秋季大会になると実に7分の1の13しか活躍していない。そして, これを大会毎にみると, 冬季大会の活躍度100が8回, 85が4回と高度な安定を示しているのに対し, 秋季大会は, 第14回大会の20を最高にして, 最近では1.0前後と下降の一途を辿り, しかも上昇の徴候が全くみられない。

これが, 冬季大会における折角の得点貯積も, 冬季大会の実に13.5倍の得点可能種目数が参加する秋季大会種目の鈍才から, 辛うじて下位入賞という不満足な総合成績に終わっているのである。

この傾向は, 女子総合成績ではますます顕在化し, 12回の大会平均で種目数(冬季大会2種目, 夏季大会3種目, 秋季大会13種目)を無視した得点でも, すでに冬季大会が47.7%と秋季大会の占める36.7%より高率を示し, 従って, 活躍度の差は更に拡大し, 秋季大会の平均7に対して, 冬季大会は62と8.9倍の活躍度を示している。

これらを, 各大会別にみると, 第25回大会秋季大会の活躍度1の醜態は別としても, 秋季大会が冬季大会に最も接近した活躍を示している第20回大会でも, 1:5.8の差があり, 第17回大会の6.1倍, 第14回大会の6.3倍はまだよい方で, 最低である第25回大会の53.0倍は正に論外であり, 秋季大会の庭球以下13種目のきびしい反省と自覚にたった奮起が切に望まれるところである。

3. 種別成績対比

(1) 種目別成績の対比

各回の国民体育大会実施要項に明記されているように, 各種目を更に一般男子と女子, 高等学校男子と女子等の数種別に分け, それぞれに一定の得点を与え, その合計点で種目別成績を決定している。しかし, 種目の特性や競技の形式上種別別が困難であったり, あるいはしないで, または種類に分けたりして競技するのは, 32種目中陸上競技等8種目である。

今回は, 本大会実施要項で種別別に分類し, そのうち競技形式上比較検討の困難なウエイトリフティング・弓道および水泳の3種目を除いた, 21種目の計109種別について対比を試みた。

第3回大会以降における種別別成績(表12)は, 総廷試合数1613のうち, 入賞率の高い

のは教員男子の62.8%（延試合 129中81入賞）を最高に、一般男子の55.2%（同 511中282）、高等学校男子の54.6%（同 469中 256）と3種別が入賞率5割を越え、最低は、高等学校女子の総延試合 238のうち、入賞したのは僅か69で29.0%と低い。平均では、延 803種別が入賞し、その率は49.8%とほぼ半数である。なお、性別にみると、男子の55.5%（1126試合中 625入賞）と過半数に対して、女子は36.6%（同 487中 178）と低い。これを、最近10回の大会に絞ったものと対比すると、一般女子（後者44.4%）以外は、いずれも後者が低率を示しているが、その差は一般男子の8.4%、1種目しかない青年男子の15.3%、高等学校男子の5.2%が目立つ程度の僅少なものである。

1回戦、あるいは1回戦不戦の場合は2回戦を“初回戦”といい、初回戦の勝率をみると、1種目にしかない相撲競技青年男子の64.7%（延17試合中11試合入賞）を最高にして、一般男子の54.3%（同 372中 202）の2種別が過半数の勝率を示しているだけで、最低率は高等学校女子（同 166中42）の僅か4分の1という勝率である。更に、最近10回の初回戦勝率は、青年男子（70.0%）を除いていずれも悪く、特に一般男子と女子は、約15%低くなっている。

就中、一般女子の17.4%（同86中15）、高等学校女子の13.8%（同80中11）が示してい

表12 種別別成績

項 目 種別 性別 種別数 試合数				入賞		初回戦						最近10回の成績							
				数	%	試合数	勝敗	%	敗入で賞数	%	試合数	入賞		初回戦					
												数	%	試合数	勝数	%	入敗賞で数	%	
一男	26	511	282	55.2	372	202	54.3	43	11.6	252	118	46.8	180	69	38.3	29	16.1		
一女	13	249	109	43.8	171	54	31.6	38	22.2	126	56	44.4	86	15	17.4	23	26.7		
教青	男男	10	129	81	62.8	116	45	38.8	23	19.8	96	57	59.4	86	29	33.7	20	23.3	
		1	17	6	35.3	17	11	64.7	—	—	10	2	20.0	10	7	70.0	—	—	
高高	男男	25	469	256	54.6	321	141	43.9	51	15.9	241	119	49.4	159	57	35.8	29	18.2	
		12	238	69	29.0	166	42	25.3	18	10.8	120	33	27.5	80	11	13.8	9	11.3	
	男女	62	1126	625	55.5	826	399	48.3	117	14.2	599	296	49.4	435	162	37.2	78	17.9	
		25	487	178	36.6	337	96	28.5	56	16.6	246	89	36.2	166	26	15.7	32	19.3	
計		87	1613	803	49.8	1163	495	42.6	173	14.9	845	385	45.6	601	188	31.3	110	18.3	

（注）1. 種別があつて、種別成績不詳のため除いた種目（3種目）。

22 ウエイトリフティング 23 弓道 24 水泳

2. 種別のない種目（8種目）。

25 陸上競技 26 自転車 27 馬術 28 フェンシング

29 クレー射撃 30 ライフル射撃 31 ヨット 32 スキー

3. 初回戦で試合数の異なるのは、体操・漕艇・スケートの初回戦不明を除いたためである。

るように、女子の84.3%、男子の62.8%、全体では約7割の試合が、いわゆる“出ると負け”という無様な様態を演じているのである。従って、他都府県が初回戦に本道との対戦を希求しているのも当然である。

また、先に述べた如く、国民体育大会独自の参加都道府県数を規制する種別数から、初回戦に負けながらも入賞した率は、全体では14.9%もあり、最近10回の大会に絞ってみると、いずれの種別も若干ずつ高くなっている。特に、一般女子は26.7%（同86中23）、教員男子23.3%（同86中20）と極めて有利な立場にある。これは、開催県と本道に与えられた、大会実施要項の規制からくる利点である。

ところが、最近の財団法人北海道体育協は、この特権を自ら放棄する動向にあるようであるが、各種目種別の成績低迷のマンネリズムに喝を入れる手段としては、その発想に疑問を持たざるを得ないのである。具体的例をとってみると、一般女子の場合では、延171種別の試合で、入賞数69種別の入賞率は40.4%であるが、この中で初回戦敗ながらも入賞しているのは38種別で、入賞数に対する55.1%と過半数を占めている。また、全体では、延1163の試合中 557種別（47.9%）が入賞しているが、うち 173種別と入賞数の31.1%が初回戦敗で入賞していることで、北海道1ブロック制の予選方法がいかに有利かが是認できる。

（2）種目種別成績の対比

以上の種別別成績を、更に種目別の種別（表13）にみると、入賞率の高い当該種別計の種目は、ラグビーフットボールの100%（延43試合中43試合入賞）、ホッケーの96.2%（同52中50）、高等学校野球の84.6%（同26中22）、スケートの81.9%（同171中140）等で、逆に低い入賞率は、庭球の13.8%（同80中11）、軟式庭球の14.2%（同106中15）、体操の15.0%（同127中19）等であり、50%以上の入賞率を示すのは11種目で、これは全体の52.4%と辛うじて過半数を占めている。これを、最近10回の大会に絞ってみると、高入賞はホッケーとラグビーフットボールの100%、スケートの89.0%等で、逆に悪いのは蹴球の13.3%、庭球の10.0%、体操の3.3%等であり、また、50%以上は8種目で、全体の38.1%と少なくなっている。

更に、個々の種別毎にみると、まず、90%以上の高い入賞率を示しているのは、ホッケーの一般男子など14種別で全体の僅か17.2%と少ない。一方、20%以下は庭球の一般女子外18種別（21.8%）で、このうち入賞皆無は庭球高等学校男子（21試合）、ソフトボールの高等学校女子（同20）、相撲の教員男子（同9）の3種別（全体の3.4%）である。これが最近10回の大会では、90%以上の入賞種別は15（17.2%）と変動ないが、20%以下の低率入賞は、33種別（37.9%）と14種別も多くなり、入賞皆無も8種別増え、計11種別（12.6%）と悪い傾向を示している。

次に、初回戦の成績が明確な17種目56種別の初回戦勝率をみると、90%以上は僅かバドミントンの一般男子の95.2%（21試合中20試合）のみで、以下相撲高等学校男子の82.6%

表13 種目種別別成績

種目	種別	項目	試合数	初回戦勝		入賞		で初回戦敗入賞		最近10回の成績					
				数		数		数		初回戦勝		入賞		初回戦敗で入賞	
				数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1 蹴球	球	1 一男	21	6	28.6	11	52.4	5	23.8	2	20.0	2	20.0	—	—
		2 教男	16	4	25.0	7	43.8	3	18.8	1	10.0	2	20.0	1	10.0
		3 高男	22	8	36.4	6	27.3	1	4.5	2	20.0	—	—	—	—
		4 計	59	18	30.5	24	40.7	9	15.3	5	16.7	4	13.3	1	3.3
2 庭球	球	5 一男	22	6	27.3	5	22.7	—	—	2	20.0	2	20.0	—	—
		6 一女	21	2	9.5	3	14.3	1	4.8	2	20.0	2	20.0	—	—
		7 高男	21	1	4.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8 高女	16	1	6.3	3	18.8	2	12.5	—	—	—	—	—	—
		9 計	80	10	12.5	11	13.8	3	3.8	4	10.0	4	10.0	—	—
3 ホッケー		10 一男	23	13	56.5	21	91.3	8	34.8	3	30.0	10	100.0	7	70.0
		11 一女	6	1	16.7	6	100.0	5	83.3	1	16.7	6	100.0	5	83.3
		12 高男	23	13	56.5	23	100.0	10	43.5	5	50.0	10	100.0	5	50.0
		13 計	52	27	51.9	50	96.2	23	44.2	9	34.6	26	100.0	17	65.4
4 ボクシング		14 一男	23	14	60.9	17	73.9	4	17.4	3	30.0	5	50.0	3	30.0
		15 高男	18	11	61.1	6	33.3	1	5.6	7	70.0	1	10.0	—	—
		16 計	41	25	61.0	23	56.1	5	12.2	10	50.0	6	20.0	3	10.0
5 バレーボール		17 一男	23	16	69.6	15	65.2	1	4.3	3	30.0	4	40.0	1	10.0
		18 一女	23	8	34.8	13	56.5	6	26.1	1	10.0	6	60.0	5	50.0
		19 教男	19	11	57.9	12	63.2	2	10.5	5	50.0	5	50.0	1	10.0
		20 高男	23	10	43.5	6	26.1	3	13.0	3	30.0	2	20.0	1	10.0
		21 高女	23	7	30.4	2	8.7	—	—	2	20.0	—	—	—	—
		22 計	111	52	46.8	48	43.2	12	10.8	14	28.0	17	34.0	8	16.0
6 バスケットボール		23 一男	21	17	81.0	13	61.9	—	—	6	60.0	4	40.0	—	—
		24 一女	19	9	47.4	7	36.8	1	5.3	5	50.0	3	30.0	—	—
		25 教男	15	12	80.0	13	86.7	2	13.3	7	70.0	8	80.0	2	20.0
		26 高男	24	14	58.3	14	58.3	2	8.3	4	40.0	4	40.0	1	10.0
		27 高女	22	8	36.4	9	40.9	3	13.6	1	10.0	4	40.0	2	20.0
		28 計	101	60	59.4	56	55.4	8	7.9	23	46.0	23	46.0	5	10.0
7 ハンドボール		29 一男	21	8	38.1	8	38.1	3	14.3	1	10.0	1	10.0	1	10.0
		30 一女	21	6	28.6	9	42.9	3	14.3	—	—	—	—	—	—
		31 教男	8	1	12.5	5	62.5	4	50.0	1	12.5	5	62.5	4	50.0
		32 高男	21	5	23.8	13	61.9	8	38.1	2	20.0	7	70.0	5	50.0
		33 高女	22	6	27.3	10	45.5	5	22.7	3	30.0	5	50.0	3	30.0
		34 計	93	26	28.0	45	48.4	23	24.7	7	14.6	18	37.5	13	22.1
8 軟式庭球		35 一男	23	6	26.1	1	4.3	—	—	3	30.0	1	10.0	—	—
		36 一女	23	9	39.1	4	17.4	2	8.7	1	10.0	3	30.0	2	20.0
		37 教男	16	3	18.8	5	31.3	2	12.5	2	20.0	4	40.0	2	20.0

種 目	種 目	項 目	試 合 数	初 回 戦 勝		入 賞		で初 回 入 賞 戦 勝		最 近 10 回 の 成 績					
				数		数		数		初回戦勝		入 賞		初回戦敗 で入賞	
				数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
8 軟 式 庭 球	38	高 男	22	4	18.2	3	13.6	2	9.1	2	20.0	2	20.0	2	20.0
	39	高 女	22	5	22.7	2	9.1	—	—	2	20.0	—	—	—	—
	40	計	106	27	25.5	15	14.2	6	5.7	10	20.0	10	20.0	6	12.0
9 卓 球 注. 予選リーグ戦 敗を初回戦敗 とした。	41	一 男	22	13	59.1	11	50.0	—	—	4	40.0	3	30.0	—	—
	42	一 女	22	8	36.4	3	13.6	1	4.5	2	20.0	1	10.0	1	10.0
	43	軟男女	21	13	61.9	9	42.9	—	—	6	60.0	5	50.0	—	—
	44	高 男	22	8	36.4	6	27.3	—	—	2	20.0	2	20.0	—	0
	45	高 女	22	8	36.4	4	18.2	1	4.5	1	10.0	2	20.0	1	10.0
	46	計	109	50	45.9	33	30.3	2	1.8	15	30.0	13	26.0	2	4.0
10 軟 式 野 球	47	一軟式	24	10	41.7	7	29.2	2	8.3	3	30.0	2	20.0	—	—
	48	準 軟	16	8	50.0	13	81.3	5	31.3	3	30.0	8	80.0	5	50.0
	49	計	40	18	45.0	20	50.0	7	17.5	6	30.0	10	50.0	5	25.0
11 柔 道	50	一 男	21	16	76.2	3	14.3	—	—	8	80.0	1	10.0	—	—
	51	教 男	12	8	66.7	11	91.7	3	25.0	7	70.0	10	100.0	3	25.0
	52	高 男	19	8	42.1	3	15.8	—	—	4	40.0	2	20.0	—	—
	53	計	52	32	61.5	17	32.7	3	5.8	19	63.3	13	43.3	3	10.0
12 ソフトボール	54	一 男	10	—	—	3	30.0	3	30.0	—	—	3	30.0	3	30.0
	55	一 女	15	1	6.7	14	93.3	14	93.3	—	—	9	90.0	9	90.0
	56	高 女	20	1	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	57	計	45	2	4.4	17	37.8	17	37.8	—	—	12	40.0	12	40.0
13 バドミントン	58	一 男	21	20	95.2	13	61.9	—	—	9	90.0	2	20.0	—	—
	59	一 女	21	10	47.6	10	47.6	1	4.8	3	30.0	4	40.0	1	10.0
	60	教 男	12	6	50.0	10	83.3	2	16.7	6	60.0	8	80.0	2	20.0
	61	高 男	21	12	57.1	19	90.5	7	33.3	4	40.0	8	80.0	4	40.0
	62	高 女	19	6	31.6	13	68.4	7	36.8	2	20.0	5	50.0	3	30.0
	63	計	94	54	57.4	65	69.1	17	18.1	24	48.0	27	54.0	10	20.0
14 ラグビー フットボール	64	一 男	20	8	40.0	20	100.0	12	60.0	1	10.0	10	100.0	9	90.0
	65	教 男	全不参加 23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	66	高 男		14	60.9	23	100.0	9	39.1	5	50.0	10	100.0	5	50.0
	67	計	43	22	51.2	43	100.0	21	48.8	6	30.0	20	100.0	14	70.0
15 高 校 野 球	68	硬 式	9	5	55.6	6	66.7	1	11.1	5	55.6	6	66.7	1	11.1
	69	軟 式	17	8	47.1	16	94.1	7	41.2	4	40.0	9	90.0	5	50.0
	70	計	26	13	50.0	22	84.6	8	30.8	9	47.4	15	78.9	6	31.6
16 剣 道	71	一 男	16	9	56.3	2	12.5	—	—	6	60.0	1	10.0	—	—
	72	教 男	9	—	—	5	55.6	5	55.6	—	—	5	55.6	5	55.6
	73	高 男	13	1	7.7	1	7.7	—	—	1	10.0	1	10.0	—	—

種 目	種 目 別	項 目	試 合 数	初 回 戦 勝		入 賞		で 初 回 戦 敗 入 賞		最 近 10 回 の 成 績					
				初 回 戦 勝		入 賞		で 初 回 戦 敗 入 賞		初 回 戦 勝		入 賞		初 回 戦 敗 で 入 賞	
				数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
17 相 撲 注 同 卓 球	74	計	38	10	26.3	8	21.1	5	13.2	7	24.1	7	24.1	5	17.2
	75	一 男	24	19	79.2	16	66.7	—	—	6	60.0	4	40.0	—	—
	76	青 男	17	11	64.7	6	35.3	—	—	7	70.0	2	20.0	—	—
	77	教 男	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	78	高 男	23	19	82.6	19	82.6	—	—	7	70.0	7	70.0	—	—
18 レスリング	79	計	73	49	67.1	41	56.2	—	—	20	51.3	13	33.3	—	—
	80	一男(F)	12	不詳	不詳	5	41.6	不詳	不詳	不詳	不詳	4	40.0	不詳	不詳
	81	〃 (G)	8	〃	〃	5	62.5	〃	〃	〃	〃	5	62.5	〃	〃
	82	高男(F)	12	〃	〃	8	66.7	〃	〃	〃	〃	6	60.0	〃	〃
	83	〃 (G)	2	〃	〃	1	50.0	〃	〃	〃	〃	1	50.0	〃	〃
19 体 操	84	計	34	〃	〃	19	55.9	〃	〃	〃	〃	16	53.3	〃	〃
	85	体一男	21	／	／	5	23.8	／	／	／	／	1	10.0	／	／
	86	操一女	22	／	／	1	4.5	／	／	／	／			／	／
	87	競高男	21	／	／	1	4.8	／	／	／	／			／	／
	88	技高女	23	／	／	4	17.4	／	／	／	／	1	10.0	／	／
20 漕 艇	89	団高男	20	／	／	4	20.0	／	／	／	／			／	／
	90	徒高女	20	／	／	5	25.0	／	／	／	／			／	／
	91	計	127	／	／	19	15.0	／	／	／	／	2	3.3	／	／
	92	一男K	21	／	／	14	66.7	／	／	／	／	7	70.0	／	／
	93	〃 S	21	／	／	17	81.0	／	／	／	／	6	60.0	／	／
21 ス ケ ー ト	94	高男K	21	／	／	15	71.4	／	／	／	／	7	70.0	／	／
	95	〃 S	21	／	／	16	76.2	／	／	／	／	6	60.0	／	／
	96	一女K	20	／	／	14	70.0	／	／	／	／	7	70.0	／	／
	97	高女K	14	／	／	6	43.0	／	／	／	／	6	60.0	／	／
	98	計	118	／	／	82	69.5	／	／	／	／	39	65.0	／	／
	99	一男S	17	不詳	不詳	17	100.0	不詳	不詳	不詳	不詳	10	100.0	不詳	不詳
	100	〃 H	20	〃	〃	20	100.0	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	101	〃 F	19	〃	〃	11	57.9	〃	〃	〃	〃	7	70.0	〃	〃
	102	高男S	15	〃	〃	15	100.0	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	103	〃 H	20	〃	〃	20	100.0	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	104	〃 F	16	〃	〃	12	75.0	〃	〃	〃	〃	8	80.0	〃	〃
	105	教男S	13	〃	〃	13	100.0	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	106	一女S	17	〃	〃	17	100.0	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	107	〃 F	19	〃	〃	4	21.1	〃	〃	〃	〃	4	40.0	〃	〃
	108	高女F	15	〃	〃	11	73.3	〃	〃	〃	〃	10	100.0	〃	〃
	109	計	171	〃	〃	140	81.9	〃	〃	〃	〃	89	89.0	〃	〃

(同23中19)、バスケットボールの一般男子81.0%(同21中17)と同種目教員男子の80.0%(同15中12)が目立つ程度の寂しい現状である。逆に、20%以下は、13種別で全体の23.2%を占めている。

これが、最近10回の大会成績になると、バドミントンの一般男子はなお健在で90.0%の初回戦勝がみられ、それに柔道の一般男子がのびてきて80.0%を示している。これに対して、20%以下の低率初回戦勝種目は、実に過半数の31種別55.4%を占めている。しかも、初回戦全敗は、全体でソフトボール一般男子・剣道教員男子および相撲教員男子の3種別だったのが、9種別と3倍に増え、なかでも、ソフトボールは一般男子と女子、および高等学校女子の全種別が該当するという停滞ぶり、これらには、本来多くの種目に共通する弱質な諸背景もさることながら、果して技術向上への意欲があるのか、はたまた、この劣悪な記録にどの程度の責任を感じているのか疑視せざるを得ないのである。

以上を総合考察して、この関係者が、数年前より提唱してきた選手の少数精鋭主義をいよいよ実施する場合、躊躇なく参加資格を剥奪されるのは、庭球の高等学校男子と女子、ハンドボールの一般女子、ソフトボールの高等学校女子および相撲の教員男子の入賞皆無、初回戦全敗の5種別であろう。

国民体育大会の競技方法上から、初回戦敗ながら入賞率の高い種別は、ソフトボールの一般女子の93.3%(延15試合中14初回戦敗で入賞)や、ホッケー一般女子の83.3%(同6中5)等であり、さらに、最近10回の大会では、上記2種別の外にラグビーフットボール一般男子の90.0%(同10中9)等がある。

そして、当該種別をまとめてその種目をみた場合、初回戦の成績と入賞数の関係で、最も恵まれているのはソフトボールである。ソフトボールは、一般男子と女子、および高等学校女子の全3種別で延45試合を行ない、初回戦で勝ったのは僅か2回(4.4%)であるが、その2回はいずれも次の試合では敗れている。しかし、種別入賞は17回(37.8%)もあり、しかも、うち16回(94.1%)が初回戦で敗退したものである。これを最近10の大会でみると、初回戦勝皆無ながらも種別入賞は12回(40.0%)もある。更には、第8回大会では、男女総合種目成績で堂々6位を獲得している。女子総合種目成績になると、まさに棚牡丹式の種目といってよく、第8回大会では6位、第23回大会は7位、第14・20・21・22回大会には8位と、6度(入賞率30.3%)も種目入賞をしている。

これは、国民体育大会競技方法上のマジックであり、フル・エントリーに近い本道が得点する陰の素因にもなっている。このような因子は、他の参加チームを規制する種別をもつ種目にも、多少の差はあるがそれぞれ内在している。

(3) 種別活躍度の対比

以上、各種目の種目別を、入賞と初回戦勝敗の2つの立場から分析してみたが、この2つの立場を等分視し、各種目別の活躍度(表14)を200満点で考察すると、分類の困難な種別および種別のない種目を除いた17種目61種別では、バスケットボールの教員男子の、

表14 種別活躍度

活躍度	一般男子	一般女子	教員男子	青年男子	高校男子	高校女子	計
0～19			相撲		庭球 剣道		3 (4.9%)
20 ┌ 49	軟式庭球 ソフトボール	庭球			軟式庭球	庭球 バレーボール 軟式庭球 ソフトボール	8 (13.1%)
50 ┌ 79	庭球 ハンドボール 軟式野球 剣道	ハンドボール 軟式庭球 卓球	蹴球 ハンドボール 軟式庭球 剣道		蹴球 バレーボール 卓球 柔道	バスケットボール ハンドボール 卓球	18 (29.5%)
80 ┌ 99	蹴球 柔道	バレーボール バスケットボール バドミントン			ボクシング ハンドボール		7 (11.5%)
100 ┌ 129	卓球 卓球軟式	ホッケー ソフトボール	バレーボール	相撲	バスケットボール 高校野球硬	バドミントン	9 (14.8%)
130 ┌ 149	ホッケー ボクシング バレーボール バスケットボール 準硬野球 ラグビーフットボール 相撲		バドミントン		バドミントン 高校野球軟		10 (16.4%)
150 以上	バドミントン		バスケットボール 柔道		ホッケー ラグビーフットボール 相撲		6 (9.8%)

(注) 17種目61種目を分類し、分類困難な種別および種別なしを除いた。

初回戦勝率(%)＋入賞率(%)を活躍度とした。第3回～第25回大会の成績から分析した。

166.7を筆頭に、150以上の活躍をしたのは6種別で、全体の僅か1割であり、うち、高等学校男子に3種別（同種別では18.7%）と半数を占め、その種目は、ホッケー・ラグビーフットボールおよび相撲である。活躍度100以上は、一般男子では55.6%（18種目中10種目）と過半数を占め、つづいて教員男子の44.4%（同9中4）、高等学校男子の43.7%（同16中7）が目立ち、逆に、高等学校女子の活躍度は極めて低く、半数の4種目が20～49にある。そして、活躍度20未満の無能な種目は、教員男子の相撲（活躍度0）および高等学校男子の庭球（同4.8）と剣道（同15.4）である。

これらを、最近10回の大会成績と対比すると、向上の跡がみられるのは、柔道教員男子の158.4が170.0になったのが最高で、計12種別（19.7%）がその差平均6.1程度と、顕著な向上ではないがよくなっている。この向上した種目は、高等学校男子に5種別と多い。

逆に、活躍が低下しているのは、41種別（67.2%）と全体の3分の2強を占め、なかでも低劣なのは、ハンドボール一般女子はその差71.5と低下している。また、いずれも活躍低下種目の方が多く、特に、一般女子の8種目（88.9%）、高等学校女子の7種目（87.5%）と女子種目の方が高いが、男子種目でも一般男子の13種目（72.2%）、高等学校男子11種目（68.7%）および教員男子の2種目（22.2%）と衰退している。

最後に、第3回大会から第25回大会の23回の大会における、各種別の入賞と初回戦の成績を総合して、その活躍の跡を種目活躍型と同じく、常勝型・不安定型・上昇型・下降型

表15 種別、種類活躍型 (32種目 117分類)

型	内 容	一般男子	一般女子	教員男子	教員女子	青年男子	高校男子	高校女子	計
常 勝 型	上位入賞が ほとんど	ホ ッ ケ ー 漕 艇 S スケートS スケートH ス キ ー 5 (13.5)	フエンシング スケートS ス キ ー 3 (15.8)	スケートS ス キ ー 2 (15.4)			レスリングF 漕 艇 S スケートS スケートH ス キ ー 5 (16.7)		15 (12.8)
不 安 定 型	上位入賞も あるが、下 位圏外もあ る	ボクシング バスケット 卓 球 卓 球 軟 男 女 準 硬 野 球 レスリングF 漕 艇 K レスリングG フエンシング 9 (24.3)	弓 道 漕 艇 2 (10.5)	柔 道 バドミントン 2 (15.4)			ホ ッ ケ ー ラグビー フットボール レスリングG 3 (10.0)	弓 道 漕 艇 2 (13.3)	18 (15.4)
上 昇 型	成績がよく なっている	ライフル射撃 スケートF 2 (5.4)		陸 上 競 技 1 (7.7)			高校野球硬 スケートF 2 (6.7)	スケートF 1 (6.7)	6 (5.1)
下 降 型	成績が悪く なっている	蹴 球 バレーボール ハンドボール バドミントン ラグビー フットボール 相 撲 馬 術 7 (18.9)	ホ ッ ケ ー ハンドボール バドミントン 3 (15.8)	蹴 球 バレーボール バスケット ボール 3 (23.1)		相 撲 1 (50.0)	蹴 球 ボクシング バスケット ボール バドミントン 相 撲 高校野球硬 フエンシング 漕 艇 K 8 (26.7)		22 (18.8)
低 迷 型	下位入賞や 圏 外	庭 球 軟 式 庭 球 軟 式 野 球 柔 道 ソフトボール 剣 道 体 操 ウエイト リフティング 弓 道 陸 上 競 技 自 転 車 クレ ー 射 撃 ヨ ッ ト 水 泳 14 (37.8)	庭 球 バレーボール バスケット ボール 軟 式 庭 球 卓 球 ソフトボール 体 操 陸 上 競 技 ヨ ッ ト 水 泳 スケートF 11 (57.9)	ハンドボール 軟 式 庭 球 剣 道 相 撲 水 泳 5 (38.5)	陸 上 競 技 1 (100.0)	陸 上 競 技 1 (50.0)	庭 球 バレーボール ハンドボール 軟 式 庭 球 卓 球 柔 道 剣 道 体 操 団 体 手 弓 道 陸 上 競 技 水 泳 12 (40.0)	庭 球 バレーボール バスケット ボール ハンドボール 軟 式 庭 球 卓 球 ソフトボール バドミントン 体 操 団 体 手 弓 道 陸 上 競 技 水 泳 12 (80.0)	56 (47.9)
合 計		37	19	13	1	2	30	15	117

(注) 種別に分類していない種目も、できるだけ類別した。() 内の数字は、合計に対する%である。

および低迷型の5つの型に分析してみた(表15)。この場合、これまで種別に分類しなかったものや、種別なしのものもできるだけ類別し、32の全種目を117種別に分けた。

成績の優れている「常勝型」には、15種別(12.8%)が該当しているが、高等学校女子は腑甲斐なく、これに該当する種目は1つもない。他の種別では、諸条件に恵まれているスキーおよびスケートのスピードとアイスホッケーが共通して活躍しているが、その他に、一般男子のホッケーと漕艇のシングルスカル、一般女子のフエンスिंग、高等学校男子レスリングのフリースタイルと漕艇シングルスカルは高く評価されてよい。

総じて成績はよいが、確実性に欠ける「不安定型」は、18種別あり、なかでも一般男子は種目の約4分の1が該当し、常勝型の種目とあわせると、他種別よりかなり高い4割近くの種目に活躍の跡がみられる。そして、これらの不安定型の種別は、本道総合成績向上の最短距離にあり、弛まぬ努力の累積が安定した上位入賞に結着することを再認識してもらいたい。

次に、最近の大会で成績が向上し、得点をあげてきた「上昇型」には、僅か6種別5.1%と明るい素材は少ないが、そのなかで、スケートのフィギュアが、室内スケートリンクの普及等から台頭してきたことは、とくに女子の場合、その総合成績の上位安定入賞に大きな影響をもたらすので、一層の精進を期待するところである。

逆に、昔日の面影も空しい「下降型」は、22種別18.8%もある。このなかには、かつては上位入賞をほしいままにしていたバレーボールの一般男子(2位2回、3位7回)、バスケットボールの高等学校男子(優勝3回、2位1回、3位4回)、バドミントンの一般男子(2位1回、3位3回)と高等学校男子(優勝2回、2位3回、3位1回)、ラグビーフットボールの一般男子(2位5回、3位3回)、相撲の一般男子(2位3回、3位4回)と高等学校男子(優勝3回、2位2回、3位4回)および馬術(優勝1回、3位3回)など輝かしい実績が遠い過去の思い出になりつつあることは、哀惜にたえないところである。

そして、国民体育大会開催以来、4半世紀にわたって沈滞をつづけている「低迷型」には、56と半数近い種別が該当しているという低調さである。とくに、高等学校女子の種目15のうち実に12を数え、80.0%と多い醜状には、慙悔その極に達するのである。

Ⅳ 後 記

以上、全国的総合スポーツ競技会である国民体育大会における4半世紀にわたる成績を、都道府県の対比、および北海道選手団の種目、種別、季、大会等からみたものを、統計的手法によって対比分析を試みた。

国民体育大会は、第2次世界大戦終結後、国民は茫然自失、文字どおり暗中広野をさまようなかで、大日本体育会(現財団法人日本体育協会)が、国民の気力を高揚し、壊滅し

したスポーツを再建しようと提唱し、企てられたのがその起りで、昭和20年12月21日には平沼亮三氏を会長として、各競技団体を独立させて加盟団体組織を改め、翌21年2月には、スポーツの国民大会開催が提案され、まず、地方のその実情を知るため、同年4月～6月にかけて全国13カ所（本道は、同年6月20日札幌市北海道庁において開催、77人出席）でスポーツ懇談会がもたれ、参会者から大会開催の全面的賛同を得たのである。

そして、早々と同年8月9日より3日間にわたり、兵庫県宝塚市において水泳競技会が開催された。つづいて、11月1日からは、京都府・大阪府・滋賀県および奈良県下を会場として、秋季大会陸上競技外21種目に約5千人が参集し、開催されたのである。

その第1回国民体育大会実施要綱に、大会開催の趣旨を次のように記してある。

第1回国民体育大会開催要綱（開催）趣旨

一日モ早ク民主国家ヲ建設シ、日本国家ヲ再建スルコトハ戦後ニ於ケル我が国民ノ責務デアル。

我が国体育ノ責任団体デアル本会ハ体育ヲ通ジテ比ノ重責ヲ果ス可ク最善ノ努力ヲ拂ヒツツアルノデアル。

スポーツガ国民文化ノ向上、国民思想ノ民主化ニ大キイ役割ヲ占メルコトハ言ヲ俟タナイ。又建全慰楽トシ青少年ノ思想ヲ善導スル上ニ於テスポーツノ有スル意義モ極メテ深い。コノ意味ニ於テ本会ハ本年度特ニススポーツノ奨励ニ意ヲ用フルト共ニ、ソノ一助トシテ本年秋ヲ中心トシ全国的国民大会ヲ開催セントス。終戦後漸ク1ケ年ヲ経過セントスル今日世情末ダ常態ニ復セザルノ憾ミナシトハシナイガ本催ガ我國民民主化ノ促進、国民健全慰楽ノ振興ニ幾分デモ寄与スルトコロアルナラバ幸ヒデアル。

国民体育大会は、戦前、戦中実施されていた明治神宮体育大会の神事奉仕的性格と国策的運営を避け、新しい観点にたちながら、文化的な国土再建の意欲から、国民の体育大会として発足したのである。

大会のその開催趣旨は、第1回大会開催の趣旨からもわかるように、広く国民の間にスポーツを振興して、国民の健康を増進し、その生活を明朗にしようとする、体育・スポーツの生活化、大衆化がより強いねらいであった。

爾来、時代の変遷とともに本大会もまた紆余曲折し、近時における大会の性格は多目的化しつつある。その中で、国民の体育・スポーツの祭典であるといいながら、社会の変容に伴ない、ますます多様化しつつある体育・スポーツの大衆化への貢献よりも、Champion Ship sports への片寄りが極めて強く、例えば、第22回大会の開催地である埼玉県の国体選手綱領には、勝たんとする意欲なくして戦うことは、スポーツと自己に対する冒涇である。

われわれは、必勝の信念をもって埼玉国体成功のため努力する。と選手を督励している。

あるいは、第24回大会の開催地長崎県では、選手強化のために、当時の1億2千万円という多額の資金をかけたといわれているように、スポーツの高度化への意欲は一層顕在化している。

本道もまた、当然時流にのって、国体参加による道民皆スポーツへの影響よりも、スポーツの高度化による国体成績の上昇へ鋭意努力しているとはおもいますが、その成果は一向にみるべきものがない。

国民体育大会の本質的在り方についての再検討時期も到来し、これまた重要な事象ではあるが、これは全国的問題であり、すでに、財団法人日本体育協会において、改訂案がかなりつまっているやに仄聞している。従って、本道は当面している国民体育大会成績の低迷する事実をどう受けとめ善処するかが、なりにつまっているやに仄聞している。従って、本道は当面している国民体育大会の成績の低迷する事実をどう受けとめ善処するかが関係するスポーツ競技団体およびそれを統括する財団法人北海道体育協会等の、最大の課題であり急務である。

（謝 辞）

国民体育大会成績の対比分析に必要な、資料の収集にご協力いただいた、財団法人日本体育協会竹田広報課長および財団法人北海道体育協会岩橋事務局長の両氏に対し、衷心より謝意を表します。

文 献

- 1) 日本体育協会・文部省・岩手県：第25回国民体育大会実施要項, 1970
- 2) 松坂弘康：国民体育大会における北海道選手の戦績資料編, 1971
- 3) 嘉戸修他：国民体育大会の地域社会への影響, 1969

(1972・6・1)